



マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

準備する

映像や音源を楽しむ

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本機のマニュアルについて

本機には、以下のマニュアルをご用意しています。

それぞれのマニュアルで説明している内容は、下記のとおりです。



スタート
ガイド



取扱説明書
(本書)



ヘルプガイド
(オンライン)

準備する

- 設置する
- 接続する
- 初期設定をする

基本操作

- 映像や音源を楽しむ

応用操作

- 映像や音源を楽しむ

応用操作

- BLUETOOTH機能を使う
- ネットワーク機能を使う
- マルチゾーン機能を使う
- その他の機能を使う
- 設定を調節する

困ったときは

ご注意／仕様



ヘルプガイドをご覧になるには、下記URLを入力してください。

<http://rd1.sony.net/help/ha/strdn107/ja/>



警告



このマークは「高温注意 (Hot Surface)」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じることがあります。

この取扱説明書の見かた

- ・本書ではリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。
- ・イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- ・本書では、テレビ画面上の表示は「[]」、表示窓の表示は「「」」をつけて表します。

商標について

本機はドルビー^{*} デジタルデコーダー (EX) およびドルビープロロジック (II、IIx)、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS^{**} (DTS-ES および DTS 96/24) デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS の特許については下記をご覧ください。

<http://patents.dts.com>

DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、DTS およびシンボルの組み合わせは DTS 社の登録商標です。また、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI[®]) 技術を搭載しています。HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、Apple ロゴ、AirPlay、iPad、iPhone、iPod、iPod touch、及び Retina は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPad Air 及び iPad mini は、Apple Inc. の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

「Made for iPod」「Made for iPhone」「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone、iPad 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品を iPod、iPhone、又は iPadと共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品には Microsoft Corporation の知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または発布することは禁じられています。

LDAC[™] および LDAC ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

本機は Fraunhofer IIS および Thomson の MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

“ブリビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。

Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®、Wi-Fi Alliance® および Wi-Fi CERTIFIED Miracast® は Wi-Fi Alliance® の登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™、Wi-Fi Protected Setup™ および Miracast™ は Wi-Fi Alliance® の商標です。

DLNA™ および DLNA ロゴ、DLNA CERTIFIED™ は Digital Living Network Alliance の商標またはサービスマーク、認証マークです。

BLUETOOTH® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

N-Mark は米国およびその他の国における NFC Forum, Inc. の商標または登録商標です。

Android™ は Google Inc. の商標です。

Google Play™ は Google Inc. の商標です。

Google Cast™ は Google Inc. の商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、® マークは明記していません。

ソフトウェア使用許諾契約書の注意事項

本製品のソフトウェア使用許諾契約書については、59 ページをご覧ください。

ネットワークサービスのソフトウェア使用許諾契約書については、それぞれのネットワークサービスのアイコンにあるオプションメニューの [使用許諾契約書] をご覧ください。GPL (General Public License) および LGPL (Lesser General Public License)、その他のソフトウェアのライセンスについては、本製品 [Setup] メニューの [システム設定] にある [ソフトウェアライセンス] をご覧ください。

本製品には、GNU General Public License (“GPL”) または、GNU Lesser General Public License (“LGPL”) の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付の GPL/LGPL の条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

本製品で使われているソフトウェアのソースコードは GPL または LGPL の適用を受けています。ソースコードは、Web で提供しております。

ダウンロードする際には、以下の URL にアクセスしてください。

URL: <http://oss.sony.net/Products/Linux>
弊社では、このソースコードに関する質問には一切お答えできません。

目次

本機のマニュアルについて	2
この取扱説明書の見かた	3
付属品	5
各部の名前と働き	6

準備する

スピーカーを設置する	12
スピーカーを接続する	14
テレビを接続する	22
AV 機器を接続する	26
アンテナを接続する	31
ネットワークに接続する	31
電源コードをつなぐ	32
かんたん設定を使って初期設定を行なう	32

映像や音源を楽しむ

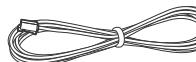
音声／映像を楽しむ	35
音響効果を楽しむ	39
ネットワーク機能を使う	42
BLUETOOTHヘッドホンで音声を聞く	43
オンラインでミュージックサービスを聞く (Google Cast)	44
ワイヤレスサラウンド機能を使う	45

その他

ソフトウェアのアップデートをする	46
困ったときは	47
使用上のご注意	52
保証書とアフターサービス	55
主な仕様	56
ソフトウェア使用許諾契約書	59

付属品

- リモコン (1)
- 単4形マンガン乾電池 (2)
- FMアンテナ線 (1)

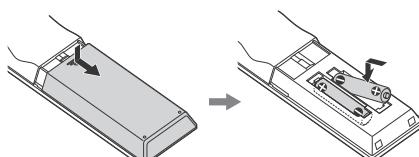


- 測定用マイク (1)



リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）を2個入れます。+と-の向きを正しく入れてください。



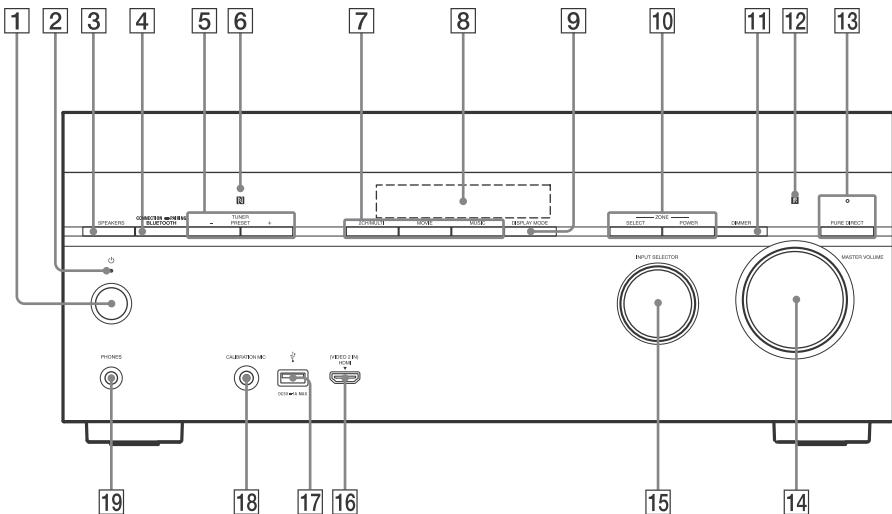
ご注意

- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池と一緒に使わないでください。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直接光に当てないでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り替えてください。

各部の名前と働き

本体

前面



- ① ⏪ (電源) ボタン (32ページ)
- ② 電源表示ランプ
- ③ SPEAKERSボタン (34ページ)
- ④ CONNECTION ●PAIRING
BLUETOOTHボタン
BLUETOOTH機能を操作します。
- ⑤ TUNER PRESET +/-ボタン
あらかじめ設定した局またはチャンネル
を選びます。
- ⑥ NFCセンサー
- ⑦ 2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン、
MUSICボタン (39ページ)
- ⑧ 表示窓 (7ページ)
- ⑨ DISPLAY MODEボタン
情報を表示窓に表示します。
- ⑩ ZONE SELECTボタン、ZONE
POWERボタン (36、38ページ)
- ⑪ DIMMERボタン
表示窓の明るさを調節します。
- ⑫ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

- ⑬ PURE DIRECTボタン
ピュアダイレクト機能を選んでいるとき
は、ボタンの上のランプが点灯します。
- ⑭ MASTER VOLUMEつまみ (35ページ)
- ⑮ INPUT SELECTORつまみ (35ページ)
- ⑯ HDMI (VIDEO 2 IN) 端子
- ⑰ ♫ (USB) ポート
ここにUSB機器を接続します。
- ⑱ CALIBRATION MIC端子 (34ページ)
- ⑲ PHONES端子
ヘッドホンをつなぎます。

電源表示ランプ

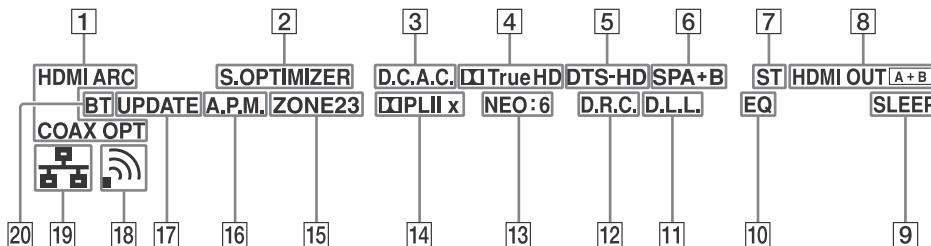
- ・緑色：本機の電源が入っています。
- ・オレンジ色：本機がスタンバイ状態で、以下のいずれかが設定されています：
 - [HDMI機器制御] および [リモート起動]、[Bluetoothスタンバイ]*、[高速起動/ネットワークスタンバイ] が [入] に設定されている。
 - [スタンバイスルー] が [入] または [自動] に設定されている。
 - ゾーン2/3またはHDMIゾーンの電源が [入] に設定されている。

本機がスタンバイ状態で、以下の設定が [切] のとき、表示ランプは消灯します：

- [HDMI機器制御] および [スタンバイスルー]、[リモート起動]、[Bluetoothスタンバイ]、[高速起動/ネットワークスタンバイ]、すべてのゾーンの電源。

* [Bluetoothスタンバイ] が働いていて、本機と外部機器をペアリングしているときのみ表示ランプがオレンジ色に点灯します。本機とペアリングされている機器がない場合は表示ランプは消灯します。

表示窓上のインジケーター



① 入力表示

現在の入力を表示します。

HDMI

選択した機器からのデジタル信号が、HDMI端子から入力されています。

ARC

テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が入力されています。

COAX

同軸デジタル音声端子からデジタル信号が入力されています。

OPT

光デジタル音声端子からデジタル信号が入力されています。

② S.OPTIMIZER

サウンド・オプティマイザーが働いています。

③ D.C.A.C.

自動音場補正の測定結果が適用されています。

④ ドルビーデジタルサラウンド表示*

対応するドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

□ ドルビーデジタル

□ TrueHD ドルビー TrueHD

⑤ DTS (-HD) 表示*

対応するDTSフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DTS

DTS-HD

DTS

DTS-HD

⑥ スピーカーシステム表示 (34ページ)

⑦ ST

ステレオ放送を受信しています。

- [8] HDMI OUT A + B**
- [9] SLEEP**
スリープタイマーが働いています。
- [10] EQ**
イコライザーが働いています。
- [11] D.L.L.**
デジタル・レガート・リニア (D.L.L.)
が働いています。
- [12] D.R.C.**
ダイナミックレンジ調整が働いています。
- [13] NEO:6**
DTS Neo:6シネマ／ミュージックデコードが働いています。
- [14] ドルビープロロジック表示**
ドルビープロロジックフォーマットの信号を処理しているときに、該当する表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張できます。
- PL ドルビープロロジック
- PLII ドルビープロロジックII
- PLIIX ドルビープロロジックIIx

[19] 有線LAN表示

LANケーブルがつながっています。

[20] BT

BLUETOOTH機器が接続されているとき
点灯します。接続操作中は点滅します。

* ドルビーデジタルまたはDTSフォーマット
のディスクを再生するときは、デジタル接続
を行い [入力モード] を [アナログ IN] 以
外に設定します。

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては表
示ランプが点灯しない場合があります。

[15] ZONE、ZONE2、ZONE3

対応しているゾーンの電源が入っている
ときに「ZONE2」、「ZONE3」または両
方が点灯します。

HDMIゾーンの電源が入ってるときに
「ZONE」および「HDMI OUT」が点灯
します。

[16] A.P.M.

A.P.M.（自動位相マッチング）機能が働
いています。D.C.A.C.（Digital
Cinema Auto Calibration）が機能中の
ときだけA.P.M.機能を設定できます。

[17] UPDATE

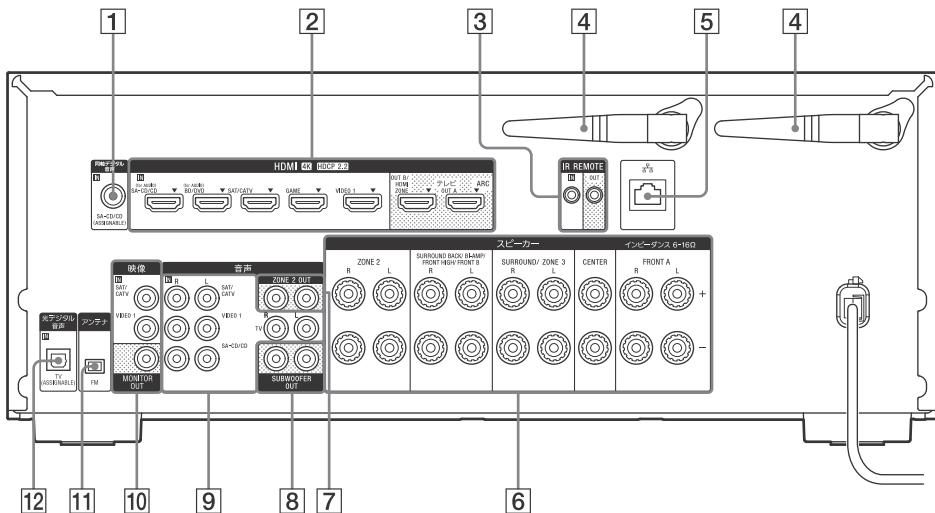
新しいソフトウェアが利用できます。

[18] 無線LAN信号強度表示

無線LAN信号の強さを表示します。

- 無信号
- 弱
- 中
- 強

後面



[1] 同軸デジタル音声IN端子

[2] HDMI IN/OUT端子*

[3] IR REMOTE IN/OUT端子

- IRリピーター（別売）をIR REMOTE IN端子につなぐことで遠くから本機を操作することができます。
- IRブロスター（別売）をIR REMOTE OUT端子に接続することによってCDプレーヤーなど本機に接続された機器を再生したり停止したりできます。

[4] 無線LANアンテナ

[5] LANポート

[6] スピーカー端子

[7] Zone2 OUT端子

[8] SUBWOOFER OUT端子

[9] 音声IN端子

[10] 映像IN/MONITOR OUT端子

[11] FMアンテナ端子

[12] 光デジタル音声IN端子

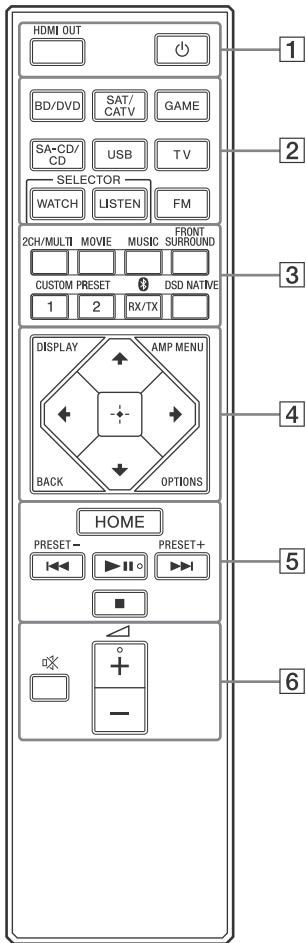
これらの入力端子から入力した映像を見るには、それぞれの入力に応じた出力端子にテレビをつないでください。

入力端子	出力端子
HDMI IN	HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE
映像IN	MONITOR OUT

詳しくは「テレビを接続する」(22ページ)をご覧ください。

* HDMI 2.2に対応しています。HDMI 2.2は4K映画などのコンテンツを保護するため、新たに高性能化された著作権保護技術です。

リモコン



① Ⓜ (電源) ボタン

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

以下のとおり設定すると、電力消費を抑えられます。

- ・[HDMI機器制御] および [リモート起動]、[Bluetoothスタンバイ]、[高速起動/ネットワークスタンバイ] を [切] に設定する。

・ゾーン2およびゾーン3、HDMIゾーンの電源をオフにする。

HDMI OUTボタン

HDMIテレビOUT AおよびHDMI OUT B/HDMI ZONE端子に接続した2台のモニターの出力を切り替えます。ボタンを押すたびに、「HDMI A」、「HDMI B」、「HDMI A+B」 および「HDMI OFF」と出力が切り替わります。HDMIテレビOUT AおよびHDMI OUT B/HDMI ZONE端子の出力をオフにしたいときは「HDMI OFF」を選びます。

② 入力切替ボタン

BD/DVDボタン、SAT/CATVボタン、GAMEボタン、SA-CD/CDボタン、USBボタン、TVボタン、FMボタン 使いたい機器を接続した入力チャンネルを選びます。いずれかの入力切替ボタンを押すと、本体の電源が入ります。

WATCHボタン、LISTENボタン

ホームメニューの [Watch] または [Listen] を直接選びます。見るまたは聞く画面でこれらのボタンを押して、使いたい入力を選ぶことができます。

③ 2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン、MUSICボタン、FRONT SURROUNDボタン

サウンドフィールド（音場）を選びます。

CUSTOM PRESET (1, 2) ボタン

本機の各種の設定を保存したり呼び戻したりします。このボタンを押してカスタムプリセット設定を選びます。このボタンを押し続けると現在の設定をプリセットに保存できます。

④ RX/TXボタン

[Bluetoothモード] を [受信] または [送信] に切り替えます。（BLUETOOTH機能またはスクリーンミラーリング機能が働いているときは使えません）。

[受信] モードのときは、本機が音声をリモート機器から受信して出力します。

[送信] モードのときは、本機が音声をリモート機器に送信します。

DSD NATIVEボタン

DSDネイティブ機能をオンにします。

④ DISPLAYボタン

情報をテレビ画面に表示します。

AMP MENUボタン

本機を操作するためのメニューが表示窓に表示されます。

BACKボタン

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

OPTIONSボタン

オプションメニューから項目を表示して選びます。

(決定) ボタン、 $\leftarrow/\uparrow/\downarrow/\rightarrow$ ボタン

\leftarrow 、 \uparrow 、 \downarrow 、 \rightarrow ボタンを押してメニュー項目を選び、 ボタンを押して決定します。

⑤ HOMEボタン

テレビ画面にホームメニューを表示させます。

$\blacktriangleleft/\triangleright$ (前へ／次へ) ボタン、

$\blacktriangleright\!\!\!/\!\!\!\blacktriangleleft$ (再生／一時停止) ボタン*、■ (停止)

ボタン

スキップ、再生、一時停止、停止の操作を行います。

PRESET +/−ボタン

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。押したままにすると、自動的に放送局をスキャンします。

⑥ \triangle (音量) +*/−ボタン

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

※ (消音) ボタン

音を一時的に消します。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

* $\blacktriangleright\!\!\!/\!\!\!\blacktriangleleft$ ボタンおよび \triangle + ボタンには凸点（突起）が付いています。本機を操作するとき、操作の目印としてお使いください。

ご注意

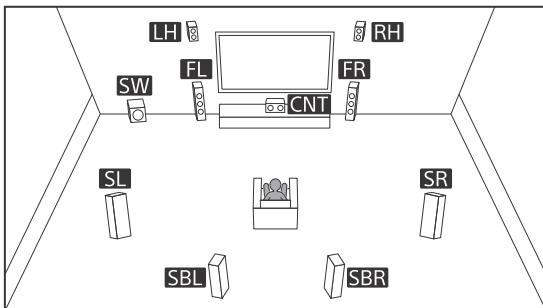
- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

準備する

スピーカーを設置する

本機は、最大7台のスピーカーと2台のアクティブサブウーファーを接続することができます。お好みのスピーカーシステムに合わせてスピーカーとアクティブサブウーファーを設置してください。

各スピーカーの位置



ご注意

- サラウンドバックスピーカー（SB）を1台だけつなぐ場合は、サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに置いてください。
- アクティブサブウーファー（SW）から出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

スピーカーの名前と機能

図で使われているスピーカー名 る略称	機能
FL	フロントLスピーカー
FR	フロントRスピーカー
CNT	センタースピーカー
SL	サラウンドLスピーカー
SR	サラウンドRスピーカー
SBL	サラウンドバックスピーカー
SBR	サラウンドバックスピーカー

図で使われてい スピーカー名 る略称

機能

SB	サラウンドバック スピーカー	サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
SW	アクティブサブウーファー	LFE（低域効果音）チャンネルの音声を出力して他のチャンネルの低音部を補強します。
LH	フロントハイLスピーカー	フロントハイL／フロントハイRチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。
RH	フロントハイRスピーカー	

備考する

スピーカー構成とスピーカーパターンの設定

お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選びます。

各ゾーンのスピーカー構成			[サラウンドバックスピーカー割り当て]**	[サラウンドスピーカー割り当て]	[スピーカー設定]で選べるスピーカーパターン	接続の参照ページ
メインゾーン	ゾーン2*	ゾーン3	[サラウンドバックスピーカー割り当て]**	[サラウンド]	[5.1]	15
5.1ch	使用不可	使用不可	[サラウンドバック]	[サラウンド]	[7.1]	16
7.1ch (サラウンドバックスピーカー使用)	使用不可	使用不可	[サラウンドバック]	[サラウンド]	[7.1(FH)]	17
7.1ch (フロントハイスピーカー使用)	使用不可	使用不可	[サラウンドバック]	[サラウンド]	[5.1]	18
5.1ch (ゾーン2スピーカー使用)	2ch	使用不可	[サラウンドバック]	[サラウンド]	[3.1]	19
3.1ch (ゾーン2およびゾーン3スピーカー使用)	2ch	2ch	[サラウンドバック]	[ゾーン3]	[5.1]	20
5.1ch (バリアンプ接続)	使用不可	使用不可	[バリアンプ]	[サラウンド]	[5.1]	21
5.1ch (フロントBスピーカー使用)	使用不可	使用不可	[フロントB]	[サラウンド]		

* [スピーカー設定] の [SURROUND BACK/ZONE2 優先端子] を [ZONE2端子] に設定してZONE 2の電源をオンにしたときのみスピーカー ZONE 2端子が使えるようになります。

**スピーカーパターンをサラウンドバックおよびフロントハイスピーカーを使わない設定にしたとき [サラウンドバックスピーカー割り当て] を設定できます。

ご注意

ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用すると、スピーカー構成は 5.1ch に固定されます。ワイヤレスサラウンドスピーカーを使って 5.1ch を楽しむには、フロントスピーカー、センタースピーカーおよびアクティブサブウーファーをつないでください。詳しくは、「スピーカーを接続する」(14 ページ) をご覧ください。ワイヤレスサラウンド機能を設定するには「ワイヤレスサラウンド機能を使う」(45 ページ) をご覧ください。

スピーカーを接続する

本機は、最大7.1チャンネルまでスピーカーを接続することができます。

次ページからのスピーカー配置図は、スピーカーの理想的な配置例です。お使いのスピーカーを図とまったく同じように配置する必要はありません。

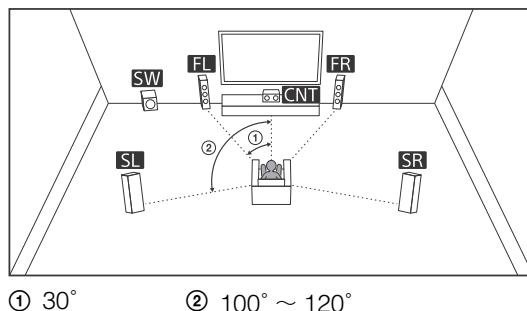
ご注意

- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- 電源コードをつなぐ前に、スピーカーケーブルの金属ワイヤーが他の端子と接触していないことを確認してください。
- オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつないで映画を見るときは、オートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーの入力信号のレベルに合わせて、電源がスタンバイ状態になり、音声が聞こえなくなることがあります。
- 最大2台までのアクティブサブウーファーをSUBWOOFER OUT端子につなぐことができます。

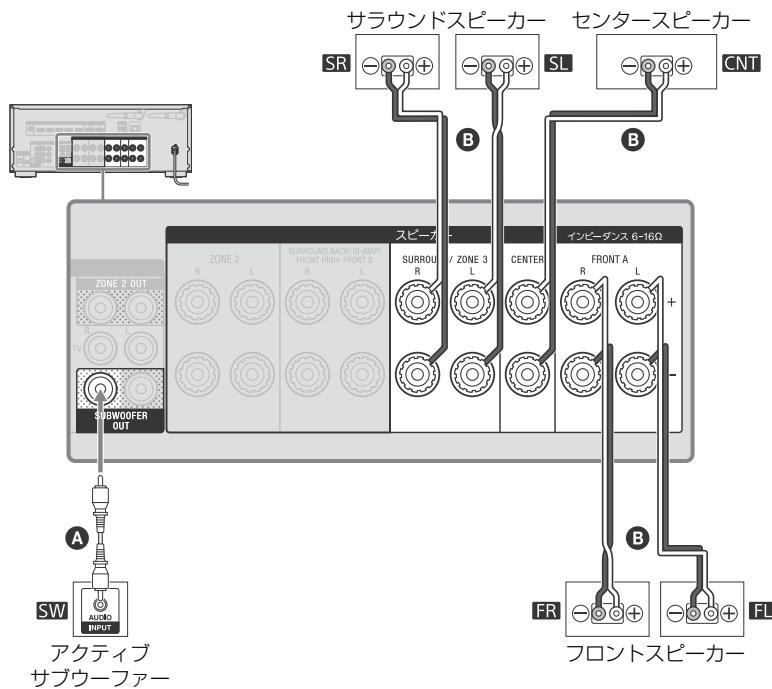
スピーカーの接続例

5.1chスピーカーシステム

準備する

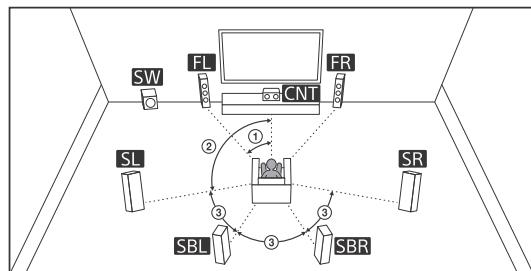


① 30° ② 100° ~ 120°



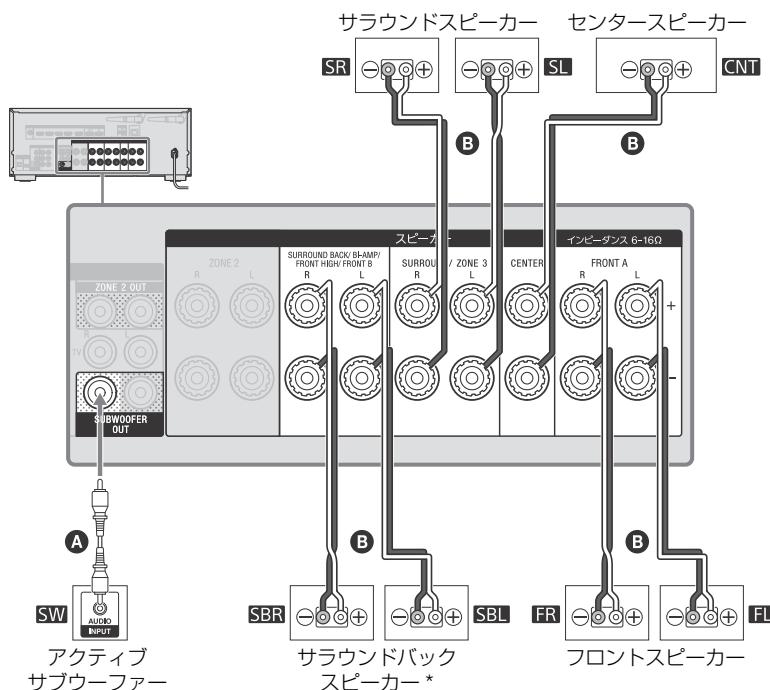
- A** モノラル音声ケーブル（別売）
B スピーカーケーブル（別売）

7.1chスピーカーシステム（サラウンドバックスピーカー使用）



① 30°
③ 同角度

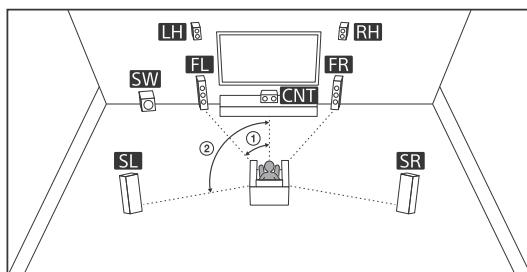
② 100° ~ 120°



- Ⓐ モノラル音声ケーブル（別売）
- Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

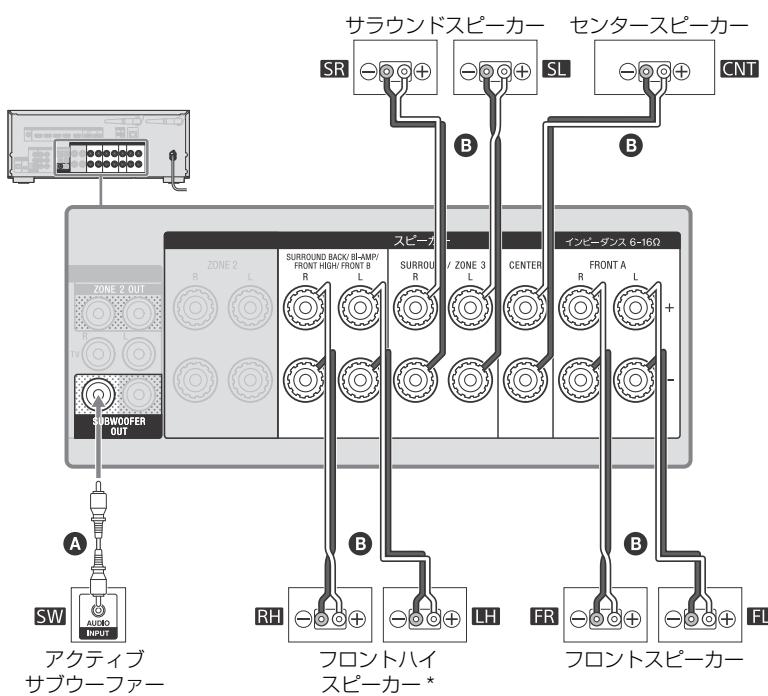
* サラウンドバックスピーカーを1台だけ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーをL (+/-) 端子に接続してください。
接続後、[スピーカー設定] の [サラウンドバックスピーカー割り当て] を [サラウンドバック] に設定してください。

7.1chスピーカーシステム（フロントハイスピーカー使用）



① 30°

② $100^\circ \sim 120^\circ$

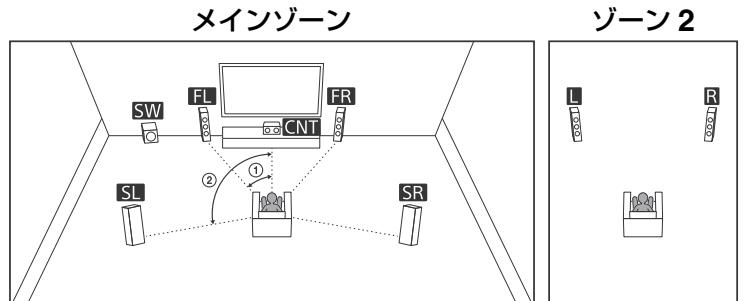


A モノラル音声ケーブル（別売）

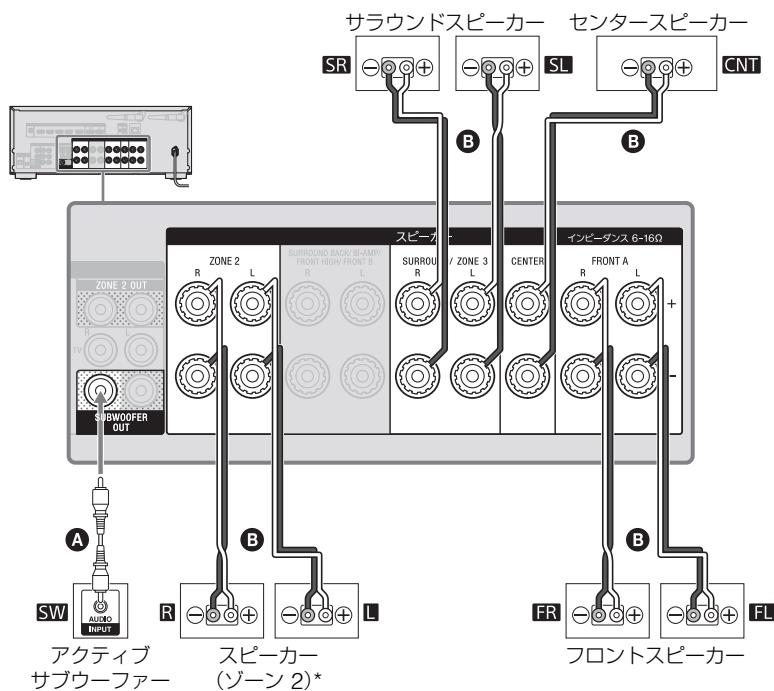
B スピーカーケーブル（別売）

* 接続後、[スピーカー設定] の [サラウンドバックスピーカー割り当て] を [サラウンドバック] に設定してください。

5.1ch スピーカーシステム（ゾーン 2 スピーカー使用）



① 30° ② 100° ~ 120°



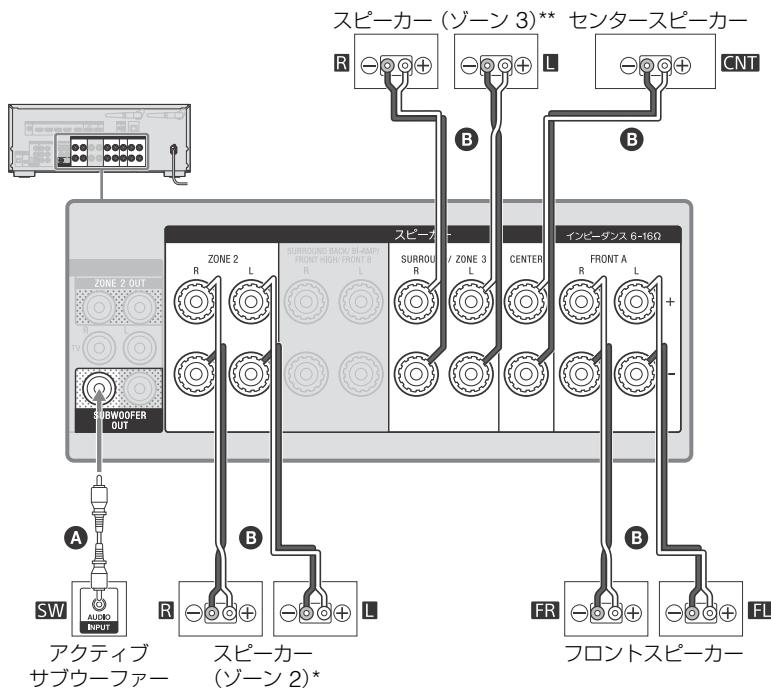
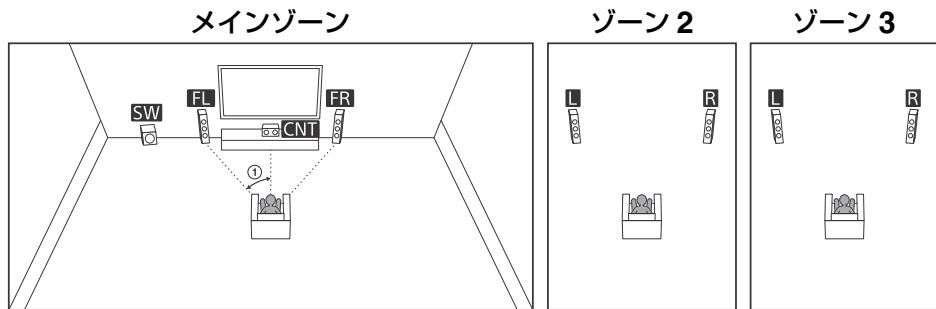
A モノラル音声ケーブル（別売）

B スピーカーケーブル（別売）

* [スピーカー設定] の [SURROUND BACK/ZONE2 優先端子] を [ZONE2端子] に設定してZONE 2の電源をオンにしたときのみスピーカー ZONE 2端子を使えるようにできます。

3.1chスピーカーシステム（ゾーン2およびゾーン3スピーカー使用）

準備する



A モノラル音声ケーブル（別売）

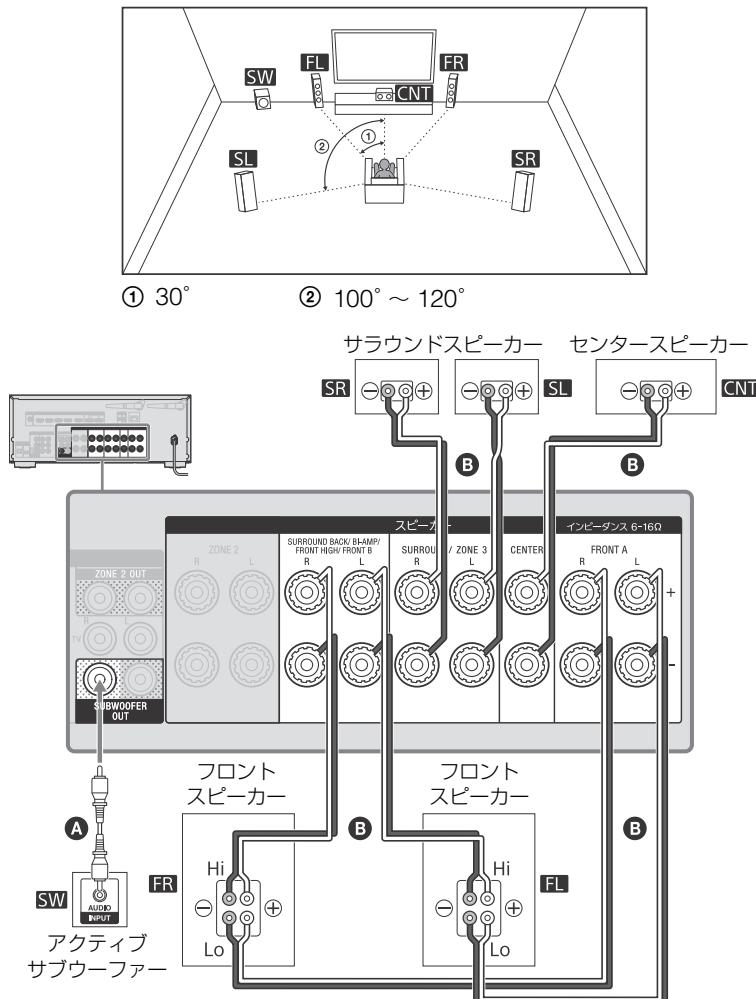
B スピーカーケーブル（別売）

* [スピーカー設定] の [SURROUND BACK/ZONE2 優先端子] を [ZONE2端子] に設定してZONE 2の電源をオンにしたときのみスピーカー ZONE 2端子を使えます。

** 接続後、[スピーカー設定] の [サラウンドスピーカー割り当て] を [ゾーン3] に設定してください。

5.1chスピーカーシステム（バイアンプ接続）

バイアンプ接続を利用して、複数のアンプをツイーターとウーファーの両方に接続することで、より高音質の再生を楽しむことができます。



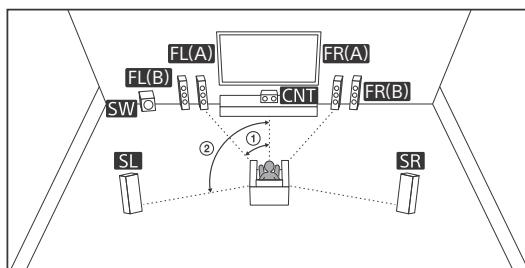
本機の故障を防ぐため、スピーカーに取り付けられているHi/Loのショート金具を必ずはずしてください。
接続後、[スピーカー設定] の [サラウンドバックスピーカー割り当て] を [バイアンプ] に設定してください。

ご注意

スピーカーパターンをサラウンドバックおよびフロントハイスピーカーを使わない設定にしたときのみ [サラウンドバックスピーカー割り当て] を設定できます (13ページ)。

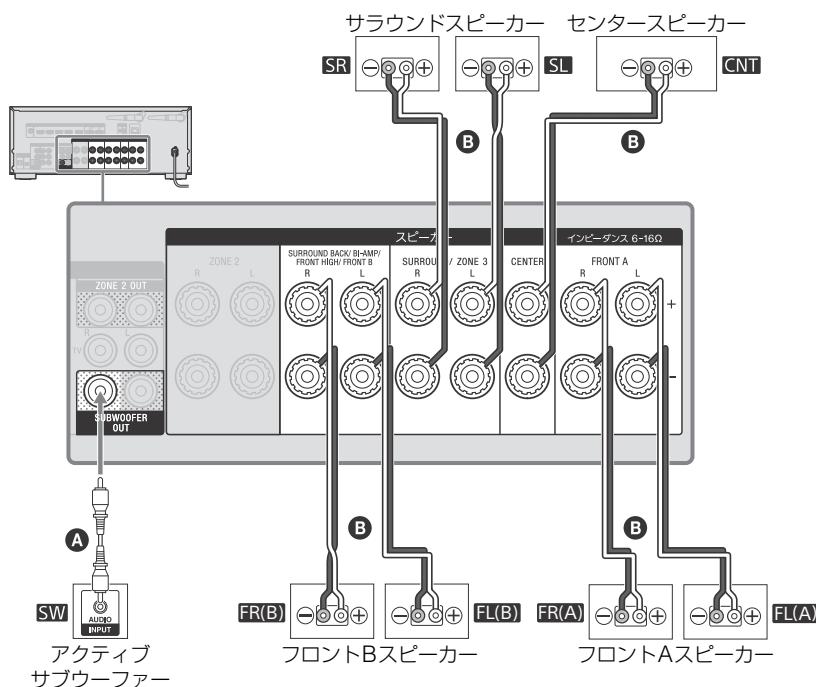
5.1chスピーカーシステム（フロントBスピーカー使用）

もう一組のフロントスピーカーシステムを使う場合、スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子につなぎます。



① 30°

② 100° ~ 120°



A モノラル音声ケーブル（別売）

B スピーカーケーブル（別売）

接続後、[スピーカー設定] の [サラウンドバックスピーカー割り当て] を [フロントB] に設定してください。
本体前面のSPEAKERSボタンを使って、使いたいフロントスピーカーシステムを選びます（34ページ）。

ご注意

スピーカーパターンをサラウンドバックおよびフロントハイスピーカーを使わない設定にしたときのみ [サラウンドバックスピーカー割り当て] を設定できます（13ページ）。

テレビを接続する

テレビをHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子に接続します。HDMI OUT端子に接続した場合、テレビ画面に表示されるメニューを使って本機を操作することができます。

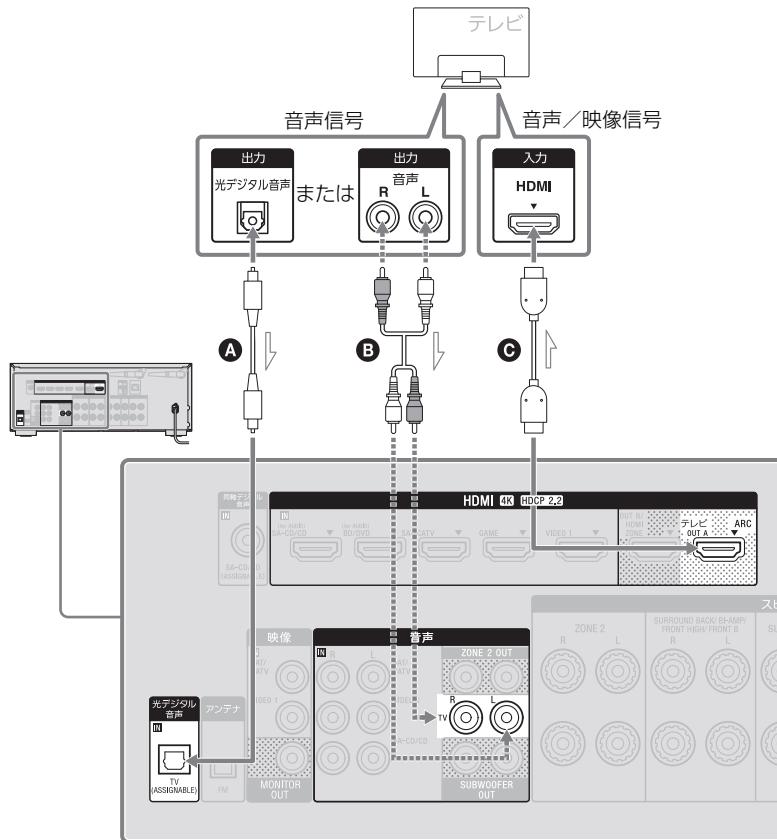
4Kテレビの接続については、ヘルプガイドをご覧ください。

接続についての注意事項

- ・ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- ・テレビまたはプロジェクターを本機のHDMI テレビ OUT A端子またはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子、MONITOR OUT端子に接続してください。
- ・イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。
4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要となります。
- ・HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声が正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれつなぎ、入力端子を設定し直してください。
- ・テレビとアンテナの接続状態によってはテレビ画面の画像が歪んで見えることがあります。その場合、本機からアンテナを離して置いてください。
- ・光デジタル音声ケーブルをつなぐ場合、プラグをカチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- ・光デジタル音声ケーブルを折り曲げたりしないでください。
- ・デジタル音声端子はサンプリング周波数32 kHzおよび44.1 kHz、48 kHz、96 kHzに対応しています。
- ・テレビを本機の音声IN TV端子につなぐ場合は、テレビの音声出力端子に「固定」または「可変」の設定があるときは、「固定」に設定してください。
- ・4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は、HDMI信号フォーマットの設定をしてください。詳しくは「HDMI信号フォーマットを設定する」(35ページ)をご覧ください。
- ・テレビをHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につなぐ場合、[HDMI設定] の [HDMI出力Bモード] を [メイン] に設定します。[HDMI出力Bモード] が [ゾーン] に設定されている場合は、ホームメニューはテレビ画面には表示されません。

HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能非対応のテレビをつなぐ

HDMI **C** の接続に加え、光デジタル音声ケーブル **A** または音声ケーブル **B** での接続が必要です。

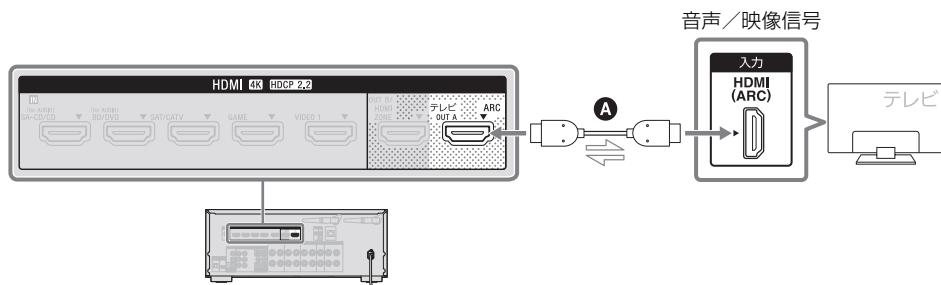


- A** 光デジタル音声ケーブル（別売）
- B** 音声ケーブル（別売）
- C** HDMIケーブル（別売）

— 推奨する接続
- - - 代替接続

HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビをつなぐ

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。テレビへの映像／音声信号の出力とテレビからの音声信号の入力を同時に行います。



Ⓐ HDMIケーブル（別売）

ご注意

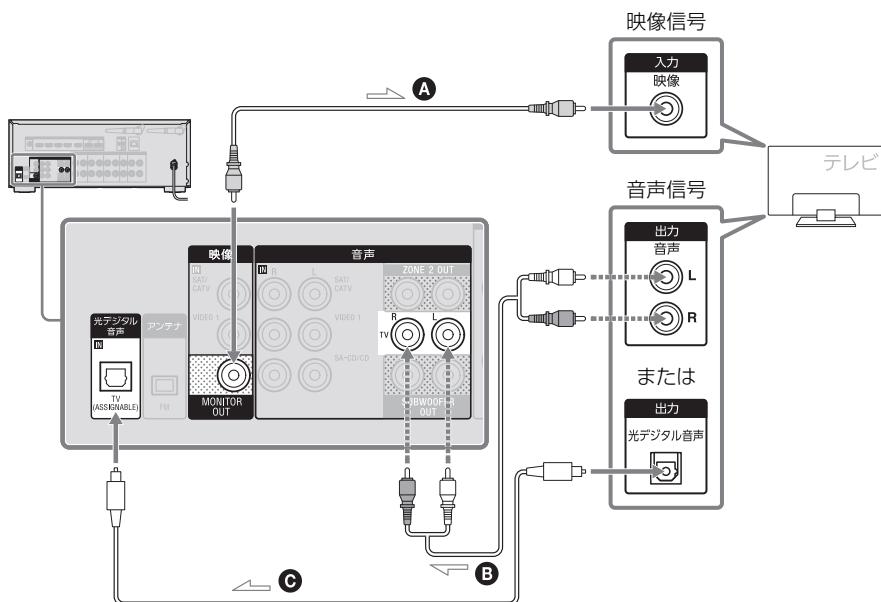
この接続時は、HDMI機器制御をオンにする必要があります。HOMEボタンを押して、[Setup] - [HDMI設定] - [HDMI機器制御] - [入] の順に選んでください。

ちょっと一言

テレビのHDMI端子（「ARC」表示のある端子）がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、本機に接続しなおしてください。

HDMI端子を使わずにテレビをつなぐ

映像ケーブル**A**の接続に加え、光デジタル音声ケーブル**C**または音声ケーブル**B**での接続が必要です。



A 映像ケーブル（別売）

B 音声ケーブル（別売）

C 光デジタル音声ケーブル（別売）

—— 推奨する接続

----- 代替接続

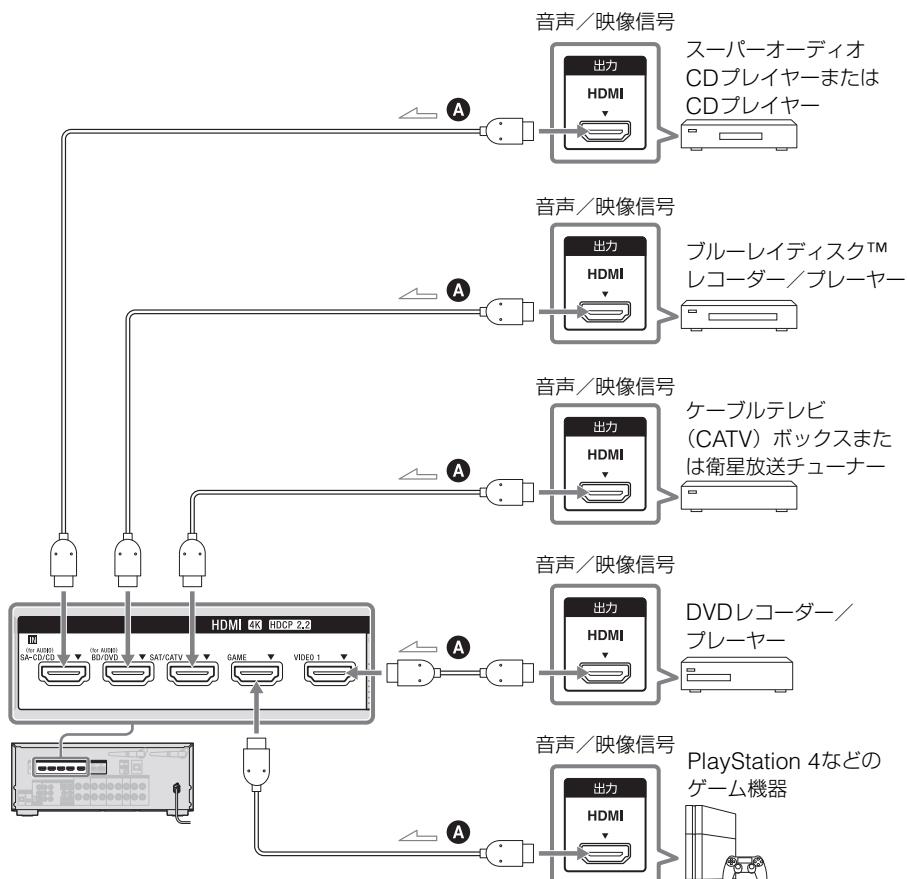
AV機器を接続する

HDMI端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

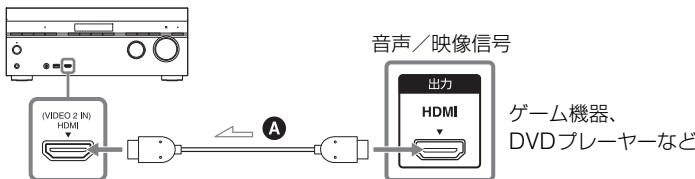
HDMI端子はHDCP 2.2に対応しています。4KコンテンツなどのHDCP 2.2で保護されたコンテンツを見るときは、これらのHDMI端子とテレビや再生機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子をつなぎます。詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

背面



A HDMIケーブル（別売）

前面



A HDMIケーブル（別売）

ちょっと一言

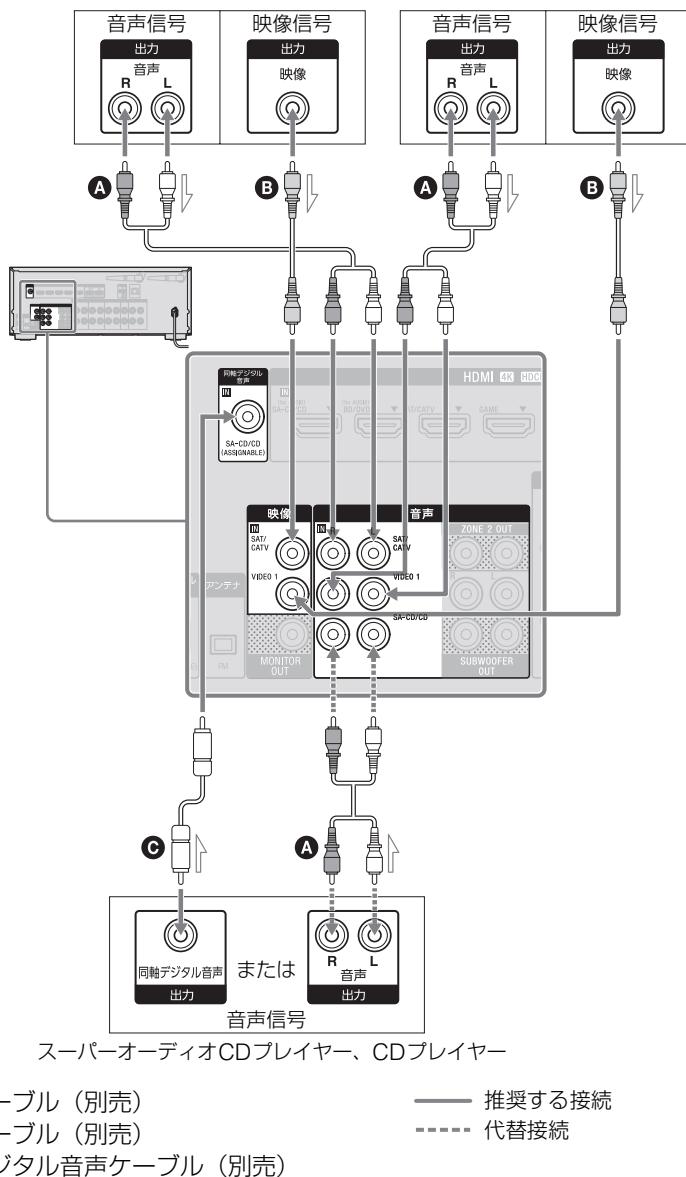
- このHDMI接続は一例です。各HDMI機器はどのHDMI入力でも接続することができます。
- BD/DVDおよびSA-CD/CD入力では、より良い音質が得られます。より高品質な音声を楽しむには、お使いの機器をこれらのHDMI端子につなぎ、BD/DVDまたはSA-CD/CDを入力に選んでください。
- 画質は接続端子によって異なります。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

ケーブルテレビ (CATV) ポック
スまたは衛星放送チューナー

ビデオデッキ、DVDレコーダー、
カムコーダー、ビデオゲーム



A 音声ケーブル (別売)

B 映像ケーブル (別売)

C 同軸デジタル音声ケーブル (別売)

—— 推奨する接続

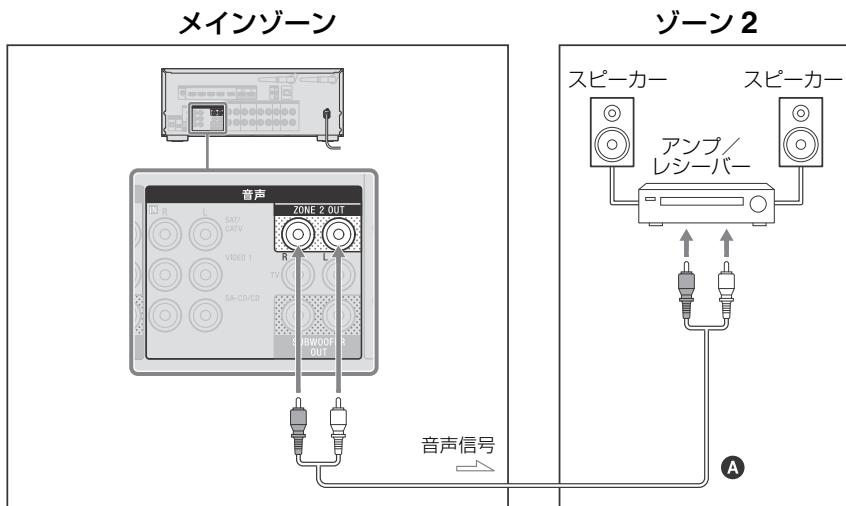
----- 代替接続

ちょっと一言

それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます。詳しくはヘルプガイドの「各入力の名前を変更する（名前）」をご覧ください。

ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



A 音声ケーブル（別売）

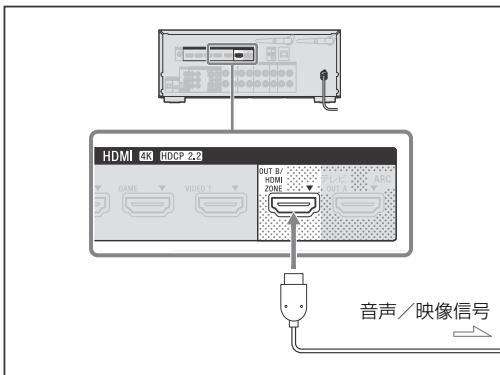
ご注意

- [USB] および [Bluetooth]（[受信] モードのときのみ）、[Home Network]、[Music Services]、[FM TUNER] の音声信号と音声 IN 端子から入力された音声信号のみゾーン2スピーカーに出力されます。
- 光デジタル音声INおよび同軸デジタル音声IN、HDMI IN端子、スクリーンミラーリングからの外部デジタル入力はゾーン2には出力できません。

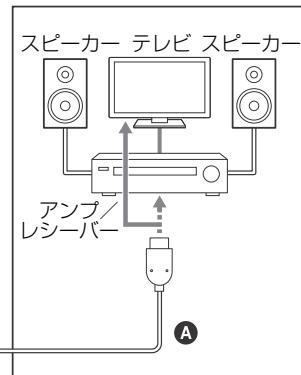
HDMIゾーンの他のアンプまたはテレビに接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

メインゾーン



HDMI ゾーン



Ⓐ HDMIケーブル（別売）

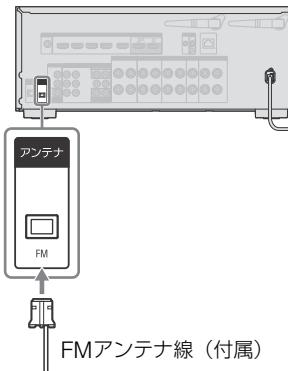
— 推奨する接続
- - - - 代替接続

ご注意

この接続を行うには [HDMI設定] メニューの [HDMI出力Bモード] を [ゾーン] に設定します。

アンテナを接続する

アンテナをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



ご注意

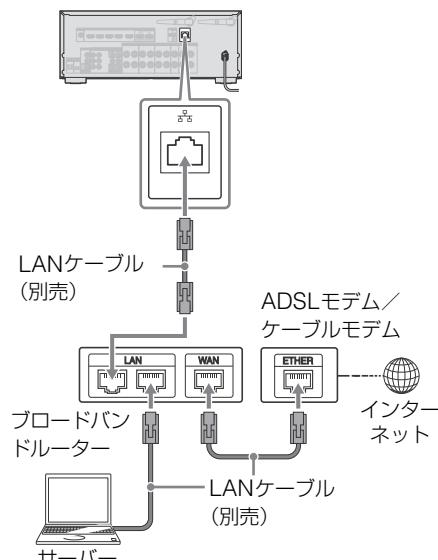
- FMアンテナ線を完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるよう設置してください。

ネットワークに接続する

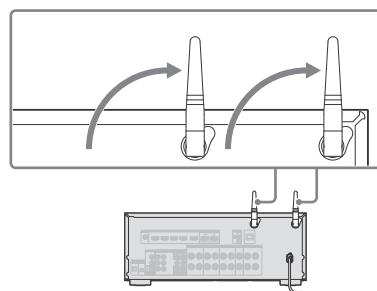
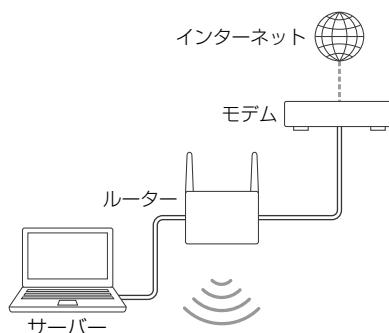
お使いのLAN (Local Area Network) 環境に応じて使用法を選びます。

下図は本機とサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。

有線LAN接続で使用するには
LANケーブル（別売）を使って本機をネットワークに接続します。



無線LAN接続で使用するには



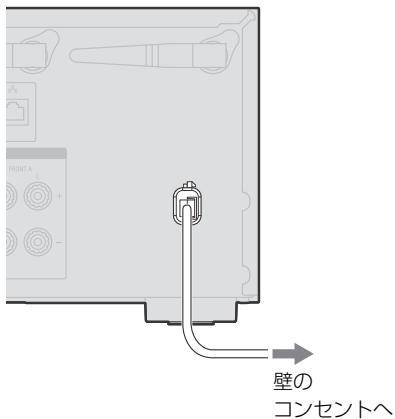
ご注意

- 無線接続の場合、サーバー上の音声再生が途切れる場合があります。
- スクリーンミラーリング、BLUETOOTH RX（受信）モードまたはBLUETOOTH TX（送信）モード使用時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。

電源コードをつなぐ

電源コードをつなぐ前に、スピーカーや他の機器が接続されていることを確認してください。

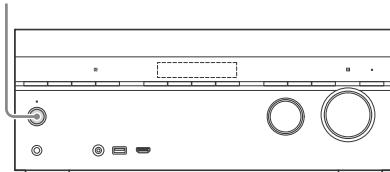
1 電源コードをコンセントにつなぐ。



2 ⓧ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。

電源を切るときは、もう一度 ⓧ (電源) ボタンを押します。

Ⓐボタン



本体前面の ⓧ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れることもできます。

ご注意

電源を切ると、表示窓に「STANDBY」が点滅します。「STANDBY」が点滅している間は電源コードを抜かないでください。誤作動の原因となることがあります。

かんたん設定を使って初期設定を行う

本機の初期設定を行うにはHDMIケーブルでテレビに接続してください（22ページ）。

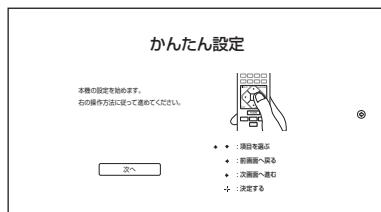
テレビの入力を本機を接続した入力に切り替えます。

ご注意

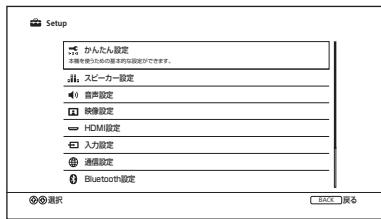
表示窓の表示を使ってかんたん設定の操作を行なうことはできません。

本機の電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。

Ⓐ/Ⓑ/Ⓑ/Ⓐ ボタンおよび □ ボタンを使い、画面の指示に従い初期設定を行ってください。



かんたん設定画面が表示されない場合、手動で表示させるには、HOMEボタンを押して、[Setup] の [かんたん設定] を選びます。



かんたん設定で可能な操作

かんたん設定を行うことで以下の設定ができます：

- 1：スピーカーを設定する
お使いのスピーカーシステムを確認し、スピーカー構成と配置に応じて自動音場補正を行います。
- 2：インターネット設定を行う
ネットワークへの接続方法、およびネットワークに接続するための設定を行います。

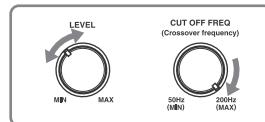
自動音場補正

自動音場補正を行う前に

- ヘッドホンを取りはずしてください。
- 測定用マイクとスピーカー間の障害物を取り除いてください。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されている場合は自動音場補正を行うことはできません。
- 正しい測定をするために、周囲の環境が静かであること、騒音がないことを確認してください。
- スピーカー出力を「SPK OFF」以外の設定にしてください。「フロントスピーカーを選ぶ」(34ページ)をご覧ください。

- アクティブサブウーファーの設定を確認してください。

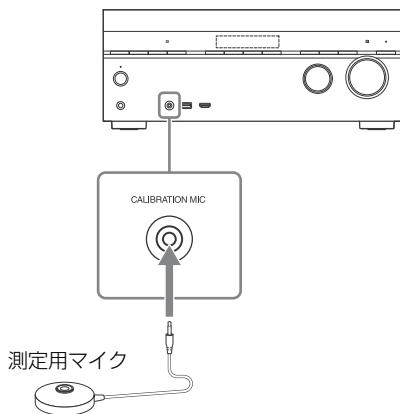
- アクティブサブウーファーを使用する設定にする前に、アクティブサブウーファーをつなぎ、電源を入れてアクティブサブウーファーの音量を上げます。音量は、ボリューム (LEVEL) つまりを半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数機能付のアクティブサブウーファーを接続するときは、設定値を最大にしてください。
- オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつなぐときは、オフ（無効）に設定してください。



ご注意

お使いのアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

- CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクを接続します。測定用マイクを視聴位置に設置してください。



ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を行う前にミュート（消音）機能がオンになっているときは、ミュート（消音）機能が自動的に解除されます。
- ダイポールなどの特殊なスピーカーが使われている場合は、正しい測定ができなかったり、自動音場補正ができなかったりすることがあります。
- 測定が失敗した場合は、メッセージに従い、[リトライ] を選びます。エラーコードおよび警告メッセージの詳細については、「自動音場補正測定後のメッセージリスト」(51ページ)をご覧ください。

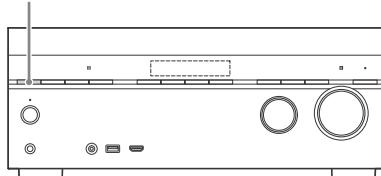
- ### 自動音場補正をキャンセルするには
- 測定中に以下の動作を行うと自動音場補正是キャンセルされます。
- ⌄ (電源) ボタンを押す。
 - リモコンの入力ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
 - ×ボタンを押す。
 - 本体前面のSPEAKERSボタンを押す。
 - 音量を変える。

- ヘッドホンをつなぐ。

フロントスピーカーを選ぶ

どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

SPEAKERSボタン



SPEAKERSボタンを繰り返し押す

表示窓の表示はどの端子が選ばれているかを示します。

- **SPA**：スピーカー FRONT A端子に接続したスピーカー。
- **SPB***：スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子に接続したスピーカー。
- **SPA+B***：スピーカー FRONT Aとスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の両方に接続したスピーカー（パラレル接続）。
- (表示なし) : 「SPK OFF」 と表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

*「SPB」または「SPA+B」を選ぶには、「スピーカー設定」の「サラウンドバックスピーカー割り当て」を使ってスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の使用法を「フロント B」に設定してください。

ご注意

ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

映像や音源を楽しむ

音声／映像を楽しむ

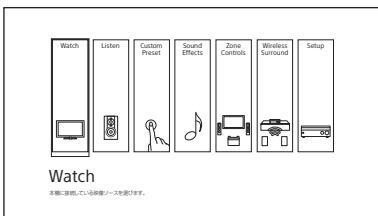
AV機器で再生する

1 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機をつないだ入力に切り替える。

2 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

テレビによっては、ホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



**3 ←/→ボタンを押して [Watch] または [Listen] を選び、
□ ボタンを押す。**

メニュー項目のリストが表示されます。

4 再生したい機器を選ぶ。

5 その機器の電源を入れ、再生を開始する。

6 □ +/−ボタンを押して音量を調節する。

本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うこともできます。

ご注意

次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

ちょっと一言

- ・本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力ボタンを押して使いたい機器を選ぶこともできます。
- ・音量を調節するには本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うか、リモコンの△ +/- ボタンを使います。
音量をすばやく上げ下げするには
 - つまみを早く回す。
 - いずれかのボタンを押し続ける。
- ・音量を微調整するには
 - つまみをゆっくりと回す。
 - いずれかのボタンを押してすぐに離す。

HDMI信号フォーマットを設定する

HOMEボタンを押して、[Setup] - [HDMI設定] - [HDMI信号フォーマット] の順に選びます。使いたい入力を選んでください。

- ・[標準フォーマット]：標準フォーマット。拡張フォーマットを使わない場合に選びます。
- ・[拡張フォーマット]：拡張フォーマット。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなどの高精細な4Kフォーマット信号を使う場合に選びます。

ご注意

- ・対応する映像フォーマットの詳細についてはヘルプガイドをご覧ください。
- ・[拡張フォーマット]を選んだ場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）を使用してください。
- ・[拡張フォーマット]を選んだ後に、画面に異常が表れた場合は、[標準フォーマット]に設定してください。

- お使いのテレビによっては、テレビ側の設定変更が必要になる場合があります。

他の部屋に設置されたスピーカーの音声を楽しむ（ゾーン2／ゾーン3）

1 ゾーン2／ゾーン3に配置したスピーカーをつなぐ（18、19ページ）。

2 本機の電源を入れる。

3（ゾーン2のみ）スピーカー端子の優先順位を設定する。

HOMEボタンを押して、[Setup] - [スピーカー設定] - [SURROUND BACK/ZONE2 優先端子] - [ZONE2端子] の順に選びます。

4（ゾーン3のみ）
SURROUND/ Zone3端子の使用法を【ゾーン3】に設定する。

HOMEボタンを押します。

- [Setup] - [スピーカー設定] - [スピーカーパターン]* の順に選び、[3.1] または [3.0]、[2.1]、[2.0]、を選んで [保存] を選びます。

- [ゾーン3] の [サラウンドスピーカー割り当て] を選びます。

* サラウンドスピーカーを使わない [スピーカーパターン] に設定してください。

5 **HOMEボタンを押して [Zone Controls] を選ぶ。**

- ゾーン2：[ゾーン2] - [ゾーン2機能] - [入] の順に設定する。
- ゾーン3：[ゾーン3] - [ゾーン3機能] - [入] の順に設定する。

本体前面のZONE SELECTボタンを繰り返し押して「ZONE 2」または「ZONE 3」を選び、本体前面のZONE POWERボタンを押すこともできます。

6 [ゾーン2入力] または [ゾーン3入力] を選び、出力したいソース信号を選ぶ。

表示窓に「2. xxxx」* または「3. xxxx」* と表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して選ぶこともできます。

*「xxxx」は入力名です。

ちょっと一言

他のゾーンでメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE] を選んでください。

7 選んだ入力機器の再生を開始する。

8 [ゾーン2音量] または [ゾーン3音量] を選んで、音量を調節する。

表示窓に「2. xxxx」* または「3. xxxx」* と表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを回して選ぶこともできます。

*「xxxx」は入力名です。

ゾーンの操作を終了するには
手順5で [ゾーン2機能] または [ゾーン3機能] を [切] に設定します。

他のアンプを使って他の部屋に設置したスピーカーの音声を楽しむ（ゾーン2）

1 ゾーン2に設置したもう1台のアンプをつなぐ（29ページ）。

2 メインゾーンにある本機とゾーン2にあるアンプの電源を入れる。

3 ゾーン2の音量調節の設定をする。

HOMEボタンを押して、[Setup] - [ゾーン設定] - [ゾーン2音声出力モード] の順に選び、[可変] または [固定] を選んでください。

- ・[可変] : ZONE 2 OUT端子からの音量を変えることができます。この設定はゾーン2のアンプで音量調整できない場合に選びます。
- ・[固定] : ZONE 2 OUT端子からの音量を変えることはできません。この設定はゾーン2のアンプで音量調整を行う場合に選びます。

4 HOMEボタンを押して、[Zone Controls] - [ゾーン2] - [ゾーン2機能] - [入] の順に選ぶ。

本体前面のZONE SELECTボタンを繰り返し押して「ZONE 2」を選び、本体前面のZONE POWERボタンを押すこともできます。

5 [ゾーン2入力] を選び、出力したいソース信号を選ぶ。

表示窓に「2. xxxx」*と表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して選ぶこともできます。

*「xxxx」は入力名です。

ちょっと一言

他のゾーンでメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE] を選んでください。

6 選んだ入力機器の再生を開始する。

7 音量を調節する。

ゾーン2にあるアンプを使って音量を調節します。

上記の手順3の「ゾーン2音声出力モード」を [可変] に設定している場合は、[ゾーン2音量] を選んで音量を調節します。表示窓に「2. xxxx」*と表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを回して選ぶこともできます。

*「xxxx」は入力名です。

映像や音源を楽しむ

ゾーンの操作を終了するには
手順4で [ゾーン2機能] を [切] に設定します。

テレビまたは他のアンプを使って他の部屋の映像や音声を楽しむ（HDMIゾーン）

1 他の部屋にあるアンプまたはテレビをつなぐ（30ページ）。

2 メインゾーンにある本機とHDMIゾーンにあるアンプとテレビの電源を入れる。

3 HDMI OUT B/HDMI ZONE

端子の使用法を「ゾーン」に設定する。

HOMEボタンを押して、[Setup] - [HDMI設定] - [HDMI出力Bモード] - [ゾーン] の順に選びます。

4 HOMEボタンを押して、 [Zone Controls] - [HDMI ゾーン] - [HDMIゾーン機 能] - [入] の順に選ぶ。

本体前面のZONE SELECTボタンを繰り返し押して「HDMI ZONE」を選び、ZONE POWERボタンを押しても操作できます。

5 [HDMIゾーン入力] を選び、 出力したいソース信号を選ぶ。

表示窓に「H. xxxx」*と表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して選ぶこともできます。

*「xxxx」は入力名です。

6 HDMIゾーンにあるアンプま たはテレビで音量を調節する。

ちょっと一言

[HDMI設定] の「[HDMI出力優先端子]」を「メイン」に設定すると、メインゾーンの信号に対する干渉を防ぐことができます。HDMIゾーンでメインゾーンと同じ入力を選んでいるときは、HDMIゾーンから映像または音声は出力されません。設定方法の詳細については、ヘルプガイドの「メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）」をご覧ください。

HDMIゾーンでの視聴を終了する には

手順4で「[HDMIゾーン機能]」を「切」に設定します。

各ゾーンで視聴できる入力

選んだゾーンによって視聴できる入力が異なります。テレビ画面または表示窓に表示されるリストから使いたい入力を選びます。

利用できる入力の詳細については、ヘルプガイドの「各ゾーンで視聴できる入力」をご覧ください。

メインゾーンについて

メインゾーンでは、本機につないだすべての機器からの入力を選べます。

ゾーン2および／またはゾーン3 について

ゾーン2、ゾーン3では映像を見ることはできません。HDMI IN端子に接続した機器からの音声は出力されません。

ご注意

- HDMI IN、または光デジタル音声 IN、同軸デジタル音声 IN端子からの信号はゾーン2またはゾーン3のスピーカーには出力されません。
- メインゾーンおよびゾーン2、ゾーン3から[USB] または [Home Network]、[Music Services]、[Bluetooth] を選ぶことができます。どちらかのゾーンでいずれかの入力が選ばれている場合でも、最後に選んだ入力が優先されます。
- ゾーン2またはゾーン3の現在の入力が[USB] または [Home Network]、[Music Services]、[Bluetooth] で、メインゾーンで「Screen mirroring」を選んだとき、ゾーン2およびゾーン3の入力は「[SOURCE]」に切り替わります。この場合、音声はゾーン2またはゾーン3には出力されません。

- AV機器を再生中で、ゾーン2またはゾーン3の現在の入力が [USB] または [Home Network]、[Music Services] の場合、BLUETOOTHヘッドホンをメインゾーンに接続すると、ゾーン2およびゾーン3の入力は [SOURCE] に切り替わります。この場合、FMチューナーとアナログ音声信号のみがゾーン2またはゾーン3に出力されます。
- AV機器を再生中で、BLUETOOTHヘッドホンをメインゾーンに接続している場合、ゾーン2またはゾーン3で [USB] または [Home Network]、[Music Services] を選択すると、BLUETOOTHヘッドホンの接続が解除されます。

HDMIゾーンについて

HDMI IN端子（VIDEO 1以外）から入力される映像や音声のみ視聴できます。

音響効果を楽しむ

音場を選ぶ（サウンドフィールド）

スピーカー接続や入力音源に合わせて、さまざまな音場（サウンドフィールド）のモードを選ぶことができます。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [Sound Effects] - [サウンドフィールド] を選ぶ。

3 ←/↑/↓/→ボタンを押して、使いたいサウンドフィールドを選んで、□ボタンを押す。

映画には、[Movie] と名前の付いているサウンドフィールドを選びます。

音楽には、[Music] と名前の付いているサウンドフィールドを選びます。

各サウンドフィールドについての詳細はヘルプガイドをご覧ください。

ご注意

- 以下の場合はサウンドフィールドは選べません。
 - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されている場合
 - ワイヤレスマルチルーム機能がオンになっている場合
- ヘッドホンで聞いているときは、ヘッドホン用のサウンドフィールドのみが表示されます。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、本機は実際の入力信号のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生する場合があります。
- 選んだスピーカーパターンによっては [PLIIx Movie] または [PLIIx Music] が表示されない場合があります。
- サウンドフィールドの設定によっては、スピーカーまたはアクティブサブウーファーから音声が出力されない場合があります。
- ワイヤレスサラウンド機能を使用しているときは、選べるサウンドフィールドが制限されます。

ちょっと一言

以下の方法でもサウンドフィールドを選ぶことができます。

- [Setup] の [音声設定] の [サウンドフィールド]。
- リモコンの2CH/MULTIボタンまたは MOVIEボタン、MUSICボタン、FRONT SURROUNDボタン。
- 本体前面の2CH/MULTIボタンまたは MOVIEボタン、MUSICボタン。

サウンドフィールドとスピーカー出力の関係

以下の表は、どのサウンドフィールドを選ぶとどのスピーカーから音声が出力されるかの関係を示しています。

ご注意

・音声が聞こえない場合は、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかりとつながれていること（14 ページ）と正しいスピーカーパターンが選ばれていること（13 ページ）を確認してください。

・ワイヤレスサラウンド機能を使用中は、以下のサウンドフィールドのみ選択できます。

- サラウンド*
- ダイレクト
- Neo:6 シネマ
- Neo:6 ミュージック

* [サラウンド] はワイヤレスサラウンド機能を使用しているときのみ選べます。

2ch コンテンツ

サウンドフィールド		表示窓	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブラバーアウト	フロントハイスピーカー
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	-	-	-	-	-
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	ダイレクト(アナログ入力)	DIRECT	◎	-	-	-	-	-
	ダイレクト(その他)	DIRECT	◎	-	-	-	○*	-
MOVIE	HDデジタル・シネマ・サウンド(ダイナミック/シアター/スタジオ)	HD-D.C.S.	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Movie	PLII Movie	◎	○	○	-	○	-
	ドルビープロロジックIIx Movie	PLIIx Movie	◎	○	○	○	○	-
	Neo:6シネマ	Neo6.CINEMA	◎	○	○	○	○*	-
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	-	-	-	○*	-
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	-	-	-	○*	-
	コンサートホール A	HALL A	◎	○	○	○	○*	○
	コンサートホール B	HALL B	◎	○	○	○	○*	○
	コンサートホール C	HALL C	◎	○	○	○	○*	○
	ジャズクラブ	JAZZ	◎	○	○	○	○*	○
	ライブハウス	CONCERT	◎	○	○	○	○*	○
	スタジアム	STADIUM	◎	○	○	○	○*	○
	スポーツ	SPORTS	◎	○	○	○	○*	○
	ドルビープロロジックII MUSIC	PLII Music	◎	○	○	-	○	-
	ドルビープロロジックIIx MUSIC	PLIIx Music	◎	○	○	○	○	-

サウンドフィールド	表示窓		フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブサブウーファー	フロントハイスピーカー
MUSIC	Neo:6ミュージック	Neo6.MUSIC	◎	○	○	○	○*	-

- : 音声が出力されません。

◎ : 音声が出力されます。

○ : 音声が出力されるかどうかはスピーカーパターンの設定によります。

* スピーカーパターンの設定によっては [スピーカー設定] の [サイズ] が [小] のとき音声が出力されます。

マルチチャンネルコンテンツ

サウンドフィールド	表示窓		フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブサブウーファー	フロントハイスピーカー
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	-	-	-	-	-
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○
MOVIE	HDデジタル・シネマ・サウンド(ダイナミック/シアター/スタジオ)	HD-D.C.S.	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Movie	PLII Movie	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックIIx Movie	PLIIx Movie	◎	○	○	○	○	-
	Neo:6シネマ	Neo6.CINEMA	◎	○	○	○	○	○
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	-	-	-	○	-
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	○	○	○	○	○
	コンサートホールA	HALL A	◎	○	○	○	○	○
	コンサートホールB	HALL B	◎	○	○	○	○	○
	コンサートホールC	HALL C	◎	○	○	○	○	○
	ジャズクラブ	JAZZ	◎	○	○	○	○	○
	ライブハウス	CONCERT	◎	○	○	○	○	○
	スタジアム	STADIUM	◎	○	○	○	○	○
	スポーツ	SPORTS	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII MUSIC	PLII Music	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックIIx MUSIC	PLIIx Music	◎	○	○	○	○	-
	Neo:6ミュージック	Neo6.MUSIC	◎	○	○	○	○	○

- : 音声が出力されません。

◎ : 音声が出力されます。

○ : 音声が出力されるかどうかは、スピーカーパターンの設定や入力ソースのチャンネルによります。

ネットワーク機能を使う

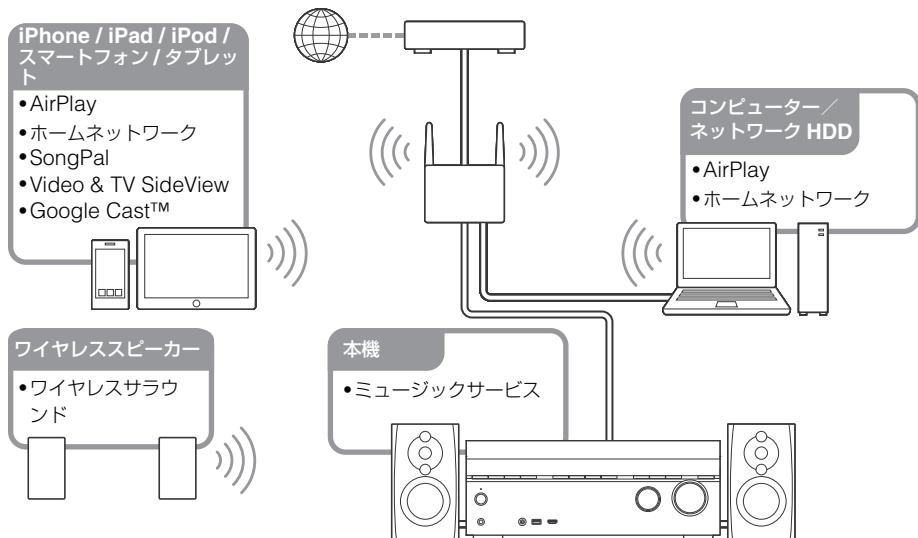
ネットワーク機能で可能な操作

有線、無線に関係なく、お使いのホームネットワークに接続したコンピューターまたはネットワークHDD、iPhone/iPad/iPod、その他のスマートフォン、タブレットのオーディオコンテンツを高音質で再生することができます。

2台のソニー製ワイヤレススピーカーを本機につないで、サラウンドスピーカーとして使うこともできます。

インターネットに接続すると、インターネットラジオなどのオーディオサービスを楽しむこともできます。

また、対応アプリを使えば、スマートフォンから本機を操作することもできます。



• AirPlay

本機はAirPlayに対応しています。

iPhone/iPad/iPodまたはお使いのiTunesのライブラリーのオーディオコンテンツを楽しむことができます。

詳しくはヘルプガイドの「ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音源を楽しむ(AirPlay)」をご覧ください。

• ホームネットワーク (DLNA)

お使いのホームネットワークでネットワーク(コンピューター、ネットワークHDDなど)のさまざまなフォーマットの音声および画像コンテンツを再生することができます。

詳しくはヘルプガイドの「ホームネットワークのサーバー内にあるコンテンツを楽しむ(DLNA)」をご覧ください。

• SongPal

お使いのスマートフォンまたはタブレットに「SongPal」アプリをインストールすると、本機を無線で操作できます。

本機のコンテンツ再生機能またはマルチゾーン機能、SongPal Link機能を使っているときにおすすめします。

詳しくはヘルプガイドの「スマートフォンやタブレット機器を使って操作する(SongPal)」をご覧ください。

• Video & TV SideView

お使いのスマートフォンまたはタブレットにTV SideViewアプリをインストールすると、本機をワイヤレスで操作できます。特にこのアプリはソニー製のテレビを本機と一緒に使いのお客様におすすめです。

詳しくはヘルプガイドの「Video & TV SideView機器をアンプに登録する」をご覧ください。

• オンラインミュージックサービス

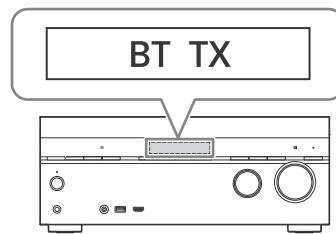
本機をインターネットに接続してミュージックサービスのさまざまな音楽を聞くことができます。

詳しくはヘルプガイドの「インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ」をご覧ください。

BLUETOOTHヘッドホンで音声を聞く

1 ☰ RX/TXボタンを繰り返し押して、「BT TX」を選ぶ。

本機のBLUETOOTHモードが送信に切り替わります。

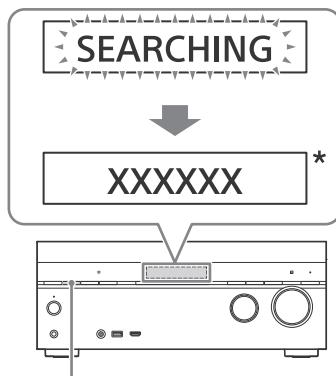


2 ヘッドホンの電源をオンにして、ヘッドホンをペアリングモードにする。

3 本体前面の**CONNECTION**
●**PAIRING BLUETOOTH**

ボタンを約2秒押し続ける。

表示窓に「SEARCHING」が約10秒点滅し、検知されたBLUETOOTH機器名が表示されます。



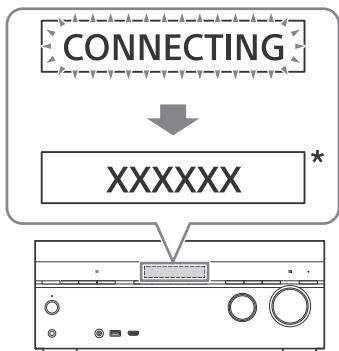
CONNECTION ● PAIRING

BLUETOOTHボタン

* XXXXXXは検知されたBLUETOOTH機器名です。

4 ↑/↓ボタンを押してヘッドホン名を選んで、□ボタンを押す。

「CONNECTING」が点滅し、ヘッドホン名が表示されます。
BLUETOOTH接続が終了します。



* XXXXXXは検知されたBLUETOOTH機器名です。

5 いずれかの入力ボタンを押して、使いたい入力を選ぶ。

BLUETOOTHヘッドホンから音声が outputされます。本機からは音声が出力されません。

6 BLUETOOTHヘッドホンの音量を調節する。

本機およびリモコンからの音量調節は、BLUETOOTHヘッドホンにのみ働きります。

ご注意

- 直近に接続したBLUETOOTH機器は上記の手順1を行うだけで再接続できます。
- ワンタッチ接続(NFC)はTX(送信)モードでは使えません。
- 表示窓に「NOT. USE」が表示されると、BLUETOOTHモードを切り替えることはできません。以下の確認をしてください：
 - BLUETOOTH機能が使用中である。
 - スクリーンミラーリング機能が使用中である。

- [Bluetoothモード]が[切]に設定されている。

ちょっと一言

[Bluetooth設定]の[Bluetoothモード]を[送信]にしてもBLUETOOTHモードから送信モードに切り替えられます。[Bluetooth設定]の[機器リスト]からヘッドホン名を選びます。お使いのヘッドホン名が見つからない場合は、[検索]を選んでください。

オンラインでミュージックサービスを聞く (Google Cast)

本機をインターネットに接続すると、Google Cast対応アプリからさまざまな音楽コンテンツを選んで本機で楽しむことができます。

1 お使いのスマートフォン／iPhoneで無料アプリSongPalをダウンロードしてインストールする。

2 本機とスマートフォン／iPhoneをWi-Fiネットワークに接続する。

本機とスマートフォン／iPhoneをお使いのルーターと同じSSID(ネットワーク)に接続します。

3 SongPalを起動し、Google Cast対応音楽アプリをダウンロードする。

- ① SongPalを起動し、「STR-DN1070」→「設定」→「Google Cast」→「キャスト方法」の順にタップする。
- ② 説明文を読んでGoogle Cast対応アプリをお使いのスマートフォン／iPhoneで検索してインストールする。

4 ダウンロードしたアプリを起動し、キャストボタンをタップして「STR-DN1070」を選ぶ。



5 聞きたい音楽を選ぶ。

本機で音楽が再生されます。

ご注意

本機に最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。

ワイヤレスサラウンド機能を使う



Wireless Surround

ソニー製のワイヤレススピーカー（別売）2台を本機のサラウンドスピーカーとして使うことができます。

使用可能なスピーカーの詳細については次のサイトをご覧ください。

<http://sony.net/nasite/>

ご注意

・ワイヤレスサラウンド機能は、本機のソフトウェアバージョンM35.R.2000以降、かつワイヤレススピーカーのソフトウェアバージョン2.0以降で使用できます。ワイヤレスサラウンド機能の設定ができない場合は、本機とワイヤレススピーカーのシステムが最新のバージョンになっているか確認してください。

本機のバージョン情報を調べるにはHOMEボタンを押して、[Setup]、[システム設定]、[本体情報] の順に選びます。ソフトウェアアップデートの詳細については「ソフトウェアのアップデートをする」(46ページ) をご覧ください。

ワイヤレスサラウンド機能を使用中は、ワイヤレススピーカーのソフトウェアは自動的にはアップデートされません。アップデートをするにはワイヤレスサラウンド機能を終了して、ワイヤレススピーカーをインターネットにつないでください。

ワイヤレススピーカーのアップデートの方法についてはワイヤレススピーカーの取扱説明書をご覧ください。

- ワイヤレスサラウンド機能を使用中は、無線LAN機能は使えません。有線LAN接続でネットワークにつないでください。
- AirPlayとワイヤレスサラウンド機能は同時に使用できません。AirPlay再生中にワイヤレスサラウンド機能を使用すると、AirPlay再生は自動的に停止します。AirPlay再生を再開すると、ワイヤレスサラウンド機能は自動的に停止します。

本機の設定を行う

- 1 使用可能なスピーカーを設置して、スピーカーの電源を入れる。

2 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

- 3 [Setup] の [ワイヤレスサラウンド設定] を選ぶ。

- 4 画面上の説明に従い、設定を行う。

SongPalの設定を行う

- 1 使用可能なスピーカーを設置して、スピーカーの電源を入れる。

- 2 SongPalで本機を選び、SongPalの説明に従い設定を行う。

その他

ソフトウェアのアップデートをする

ソフトウェアを最新バージョンにアップデートすることにより、最新の機能を楽しむことができます。

以下の場合に新しいソフトウェアがご利用になります：

- 表示窓に「UPDATE」と表示されたとき。
- [ソフトウェアアップデート通知] を [入] に設定時に、テレビ画面にメッセージが表示されたとき。

ご注意

ダウンロードとアップデートの動作が終了するまでコンセントから電源コードおよびLANケーブルを抜かないでください。誤作動の原因となることがあります。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [Setup] - [システム設定]を選ぶ。

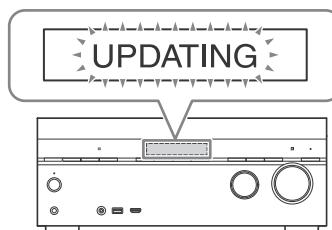
3 [ソフトウェアアップデート]を選ぶ。

4 [ネットワーク経由でアップデート] または [USBメモリーからアップデート] を選ぶ。

[USBメモリーからアップデート] を選んだ場合、以下のカスタマーサポートサイトをご覧になり、最新バージョンのソフトウェアをダウンロードしてください。

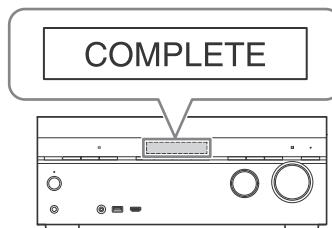
<http://www.sony.jp/support/audio/>

5 ソフトウェアのアップデートをする。



ソフトウェアアップデート中は表示窓に「UPDATING」が点滅します。アップデート中、「UPDATING」の表示が一時的に消える場合があります。

6 ソフトウェアのアップデート終了！



アップデートが終了すると、表示窓に「COMPLETE」と表示され、本機は自動的に再起動します。

ご注意

- ・アップデート終了までに約1時間かかります。
- ・ソフトウェアアップデート中は、本機の電源を切らないでください。誤作動の原因となることがあります。
- ・ソフトウェアアップデート後は、前のバージョンに戻すことはできません。
- ・自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、[自動アップデート] を [入] に設定してください。アップデートの内容によっては、[自動アップデート] が [切] に設定されてもアップデートが実行される場合があります。

困ったときは

本機の使用中に問題が発生したら、修理に出す前に、問題を解決するため以下の確認をしてください。

- ・「困ったときは」の項目にその問題が記載されているかを確認してください。
- ・問題の解決法はオンラインのヘルプガイドに記載されている場合があります。ヘルプガイドでは、キーワードを入力して検索できます。

<http://rd1.sony.net/help/ha/strdn107/ja/>

それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全体

本機の電源が自動的に切れてしまう

- ・[自動電源オフ] を [切] に設定してください。
- ・スリープタイマーが働いています。
- ・「PROTECTOR」が働いています。

表示窓が消えてしまう

- ・本体前面のPURE DIRECTランプが点灯していたら、PURE DIRECTボタンを押してこの機能をオフにします。
- ・本体前面のDIMMERボタンを押して表示窓の明るさを調節します。

画像

テレビ画面に画像が表示されない

- ・リモコンの入力切替ボタンを使って、正しい入力を選んでください。
- ・お使いのテレビを正しい入力モードに設定してください。
- ・お使いのオーディオ機器をテレビから離してください。
- ・ケーブルが機器に正しくしっかりとつながれていることを確認してください。
- ・[HDMI設定] メニューで、選ばれてい る入力の [HDMI信号フォーマット] を [標準フォーマット] に設定してください。
- ・再生機器の設定をする必要があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・1080pやDeep Color、4Kまたは3D 伝送で映像や音声を視聴する場合は、イーサネット対応ハイスピードHDMI ケーブルをお使いください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像 信号には、18 Gbpsに対応したプレミ アムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- ・本機のHDMI映像信号出力が「HDMI OFF」に設定されている場合、HDMI OUTボタンを押して、「HDMI A」または「HDMI B」、「HDMI A + B」に設定します。
- ・HDCP 2.2のコンテンツを再生する場合は、本機をテレビのHDCP 2.2対応 のHDMI入力端子に接続してください。

テレビ画面に3Dコンテンツが表示されない

- ・テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。本機が対応している3D HDMI映像フォーマットの詳細についてはヘルプガイドをご覧ください。
- ・必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。

テレビ画面に4Kコンテンツが表示されない

- ・テレビまたはビデオ機器によっては4Kコンテンツが表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- ・必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。
- ・4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）のご使用をおすすめします。
- ・お使いのテレビに「HDMI信号フォーマット」に相当するメニュー（高帯域幅を必要とする映像信号の受信可否を決める設定メニュー）がある場合、本機で【拡張フォーマット】（35ページ）を選ぶときはテレビ側の設定も確認してください。テレビ側の設定についての詳細は、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・必ず本機を4K対応のテレビまたはビデオ機器のHDMI入力端子につないでください。4K解像度のビデオコンテンツなどの再生機器を使うときは、必ずHDMIケーブルをHDCP 2.2対応のHDMI端子につないでください。

テレビ画面にホームメニューが表示されない

- ・テレビをHDMI OUT端子に接続している場合のみホームメニューが表示できます。
- ・テレビをHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につなぐ場合、[HDMI設定]の[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定します。
- ・HOMEボタンを押してホームメニューを表示させてください。
- ・テレビが正しくつながれていることを確認してください。
- ・テレビによってはホームメニューがテレビ画面に表示されるまで時間がかかる場合があります。

音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ・すべてのケーブルが本機、スピーカーその他の機器の入力／出力端子につながれていることを確認してください。
- ・本機とすべての機器の電源が入っていることを確認してください。
- ・本体前面のMASTER VOLUMEつまみが「VOL MIN」になっていないことを確認してください。
- ・本体前面のSPEAKERSボタンが「SPK OFF」になっていないことを確認してください（34ページ）。
- ・ヘッドホンが本機につながっていないことを確認してください。
- ・唚ボタンを押してミュート（消音）機能をキャンセルしてください。
- ・リモコンの入力ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回してお使いになる機器を選んでください。

- ・テレビのスピーカーから音声を聞きたい場合は、「[HDMI設定] メニューの [音声信号出力] を「[テレビ + アンプ]」に設定してください。マルチチャンネル音声ソースを再生できない場合は、「[アンプ]」に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- ・再生機器からのサンプリング周波数またはチャンネル数、音声出力信号の音声フォーマットを切り替えると、音声が途切れることができます。
- ・BLUETOOTHヘッドホンで聞いていけるときは、「[Bluetoothモード]」が「[受信]」または「[切]」に設定されていないことを確認してください。
- ・センタースピーカーを使用しないスピーカーパターンに設定しているときにDSDマルチチャンネルソースを再生しても、センタースピーカーからは音声は出力されません。
- ・サラウンドスピーカーを使用しないスピーカーパターンに設定されているときに、DSDマルチチャンネルソースを再生しても、サラウンドスピーカーからは音声は出力されません。
- ・DSDネイティブ機能をオンにしてメインゾーンでDSDファイルを再生しても、ゾーン2およびゾーン3スピーカーからは音声は出力されません。

オーディオリターンチャンネル (ARC)
機能に対応しているHDMIテレビOUT A端子にテレビを接続しているとき、テレビの音声が本機につないだスピーカーから聞こえない

- ・[HDMI設定] メニューの「[HDMI機器制御]」を「[入]」に設定してください。
- ・お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル機能に対応していることを確認してください。
- ・お使いのテレビのオーディオリターンチャンネル機能対応の端子にHDMIケーブルがつながれていることを確認してください。

サラウンド効果が得られない

- ・映画または音楽向けのサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。
- ・スピーカーパターンが「2.0」または「2.1」のときは、「PLII Movie」および「PLII Music」、「PLIIX Movie」、「PLIIX Music」、「Neo6.CINEMA」、「Neo6.MUSIC」は働きません。

ネットワーク接続

無線LAN接続でWPSを使ってネットワークにつなぐことができない

- ・アクセスポイントがWEPに設定されているときは、WPSを使ってネットワークにつなぐことはできません。アクセスポイントスキャンを使ってアクセスポイントを検索し、ネットワークの設定を行ってください。

ネットワークにつながらない

- ・有線LAN接続で本機をネットワークに接続したい場合は、LANケーブルが本機につながっていることを確認してください。
- ・ネットワーク情報を確認してください。接続できない場合は、もう一度ネットワーク接続を設定してください。
- ・本機がネットワークでワイヤレス接続されている場合は、本機と無線LANルーター／アクセスポイントを近づけてもう一度設定を行ってください。
- 無線LANルーター／アクセスポイントを使っていることを確認してください。
- 無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- 無線LANルーター／アクセスポイントの設定を確認し、もう一度設定をし直してください。機器の設定についての詳細は、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 無線ネットワークは電子レンジ、その他の機器からの電磁気に影響されます。本機をこれらの機器から離してください。

[通信設定] メニューが選べない

- ・本機の電源を入れてから少し待って、もう一度 [通信設定] メニューを選んでください。

ワイヤレスサラウンド

ワイヤレススピーカーから音が出ない、または音が小さい

- ・入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンドチャンネルからの音が小さいことがあります。
- ・著作権保護されたコンテンツ（HDCPなど）を再生した場合は、本機から音が出ないことがあります。
- ・[ワイヤレスサラウンド設定] → [サラウンドスピーカー接続確認] でサラウンドスピーカーの接続状態を確認してください。
- ・[Setup] → [スピーカー設定] → [レベル] で、サラウンドスピーカーの音量を調節してください。

映像より音が遅れる

- ・ワイヤレスサラウンド機能を使用中は、音声が遅れることがあります。

ネットワークにつながらない

- ・ワイヤレスサラウンド機能を使用中は無線LAN機能は使用できません。有線でネットワークにつないでください。

ワイヤレススピーカーを本機に接続できない

- ・本機とワイヤレススピーカーのソフトウェアを、それぞれ最新のバージョンにしてください。

AirPlay再生中にワイヤレススピーカーから音声が聞こえない

- ・ワイヤレスサラウンド機能とAirPlay機能を同時に使うことはできません。ワイヤレスサラウンド機能を使用中にAirPlay再生を始めると、ワイヤレスサラウンド機能が自動的に停止します。また、もう一度ワイヤレスサラウンド機能をオンにすると、AirPlay再生が自動的に停止します。

エラーメッセージ

「PROTECTOR」が表示窓に表示される

表示窓に「PROTECTOR」の表示が出ると、数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- ・電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- ・本機が何かで覆われ、通気孔がふさがっています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- ・本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいます。音量を下げてください。
- ・電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
 - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファーのケーブルを抜く。
 - スピーカーの芯線の先端がしっかりとねじられていることを確認してください。
 - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも30分間操作する。

その後、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確かめる。

以上の項目を確認して問題が解決したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

【過電流が発生しました。】がテレビ画面に表示される

- ♪ (USB) ポートからの過電流が検知されました。エラーメッセージに従ってUSB機器を取りはずし、メッセージを閉じてください。

自動音場補正測定後のメッセージリスト

エラー 30

- ヘッドホンが本体前面のPHONES端子に接続されています。ヘッドホンを取りはずしてもう一度自動音場補正を行ってください。

エラー 31

- フロントスピーカーが正しく選ばれていません。本体前面のSPEAKERSボタンを使ってフロントスピーカーを選び、もう一度自動音場補正を行ってください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「フロントスピーカーを選ぶ」(34ページ)をご覧ください。

エラー 32、エラー 33

- スピーカーを検出できません。
 - フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが1台しか接続されていません。
 - サラウンドLまたはサラウンドRスピーカーのどちらかが接続されていません。

- サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーが接続されていますが、サラウンドスピーカーが接続されていません。サラウンドスピーカーをスピーカーSURROUND端子に接続してください。

- サラウンドバックスピーカーがスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B R端子にしか接続されていません。サラウンドバックスピーカーを1台だけしか接続しないときはスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B L端子につないでください。

- フロントハイLまたはフロントハイRスピーカーのどちらかが接続されていません。

- 測定用マイクが接続されていません。測定用マイクが正しく接続されていることを確認してもう一度自動音場補正を行ってください。
測定用マイクが正しくつながれているのにエラーコードが表示されるときは、測定用マイクのケーブルが破損している場合があります。

警告 40

- 測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態でもう一度行うとよりよい結果が得られることがあります。

警告 41、警告 42

- マイクからの入力が過大です。
- スピーカーとマイクの距離が近過ぎます。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。

警告 43

- アクティィブサブウーファーの距離と位相が検知されませんでした。騒音が原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

使用上のご注意

安全について

万一、内部に水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、本機の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店または修理相談窓口にご相談ください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体背面の銘板に表示されています。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体のキャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因となります。

設置について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。また、本機を以下のような所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所
 - じゅうたんや布団の上
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所

- ほこりの多い所
- 密閉された所
- 直射日光が当たる所、温度が高い所
- 極端に寒い所
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナの使用時に起こりやすくなります。)

- 特殊な塗装（ワックス、油脂、溶剤など）がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめの音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンを使ったりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れのしかたについて

- キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。

- 可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでインターネットに接続してご使用になる場合、ソフトウェアを自動で最新にアップデート（更新）する機能を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追加されたり、より便利かつ安定してご使用になることができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたくない場合は、スマートフォン／タブレットにインストールしたSongPalを使って、本機能を無効にすることができます。

ただし、本機能を無効にしても、安定してご使用いただくなため等により、ソフトウェアを自動でアップデートすることができます。

また、本機能を無効にしても、お客様の操作で、システムソフトウェアをアップデートすることは可能です。

詳しい設定方法は「ソフトウェアのアップデートをする」（46ページ）をご確認ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご使用いただけない場合があります。

第三者が提供するサービスに関する免責事項

第三者が提供するサービスは、予告なく、変更・停止・終了することがあります。ソニーは、そのような事態に対しあいかなる責任も負いません。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください（57ページ）。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN（IEEE 802.11b/g/n）機器は同一周波数帯（2.4 GHz）を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度その他の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- ・本機を無線LAN機器から10 m以上離して使う。
- ・BLUETOOTH機器を10 m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- ・本機とBLUETOOTH機器ができる限り近付けて置く。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- ・病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- ・自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- ・本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- ・BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本機と同じプロファイルを持つすべてのBLUETOOTH機器とのBLUETOOTH通信を保証するものではありません。
- ・本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- ・本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

ワイヤレス技術について

- ・本機はワイヤレス機能を内蔵しています。



禁止

以下の点に注意してご使用いただき、障害などが発生した場合には、本機のワイヤレス機能を使用しないようにしてください。

また、緊急の場合には、ただちに本機の電源を切ってください。

- 病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない。電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

- 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

- ・法令により本機の5 GHz帯無線装置を屋外で使用することは禁止されています。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

W52	W52	W53	W56
-----	-----	-----	-----

IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 (W52/W53/W56)

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz/5 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- 3 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS/0F4

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

2.4FH/XX8

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式およびその他の方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

本機についてご質問や問題がある場合は、ソニーの相談窓口へお問い合わせください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
本取扱説明書またはヘルプガイドの「困ったときは」の項目をご覧になり、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときは相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DN1070
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間にについて

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。

その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオ出力時（6 Ω、JEITA）：
165 W + 165 W

サラウンド出力時（6 Ω、JEITA、非同時駆動）：

フロント：165 W + 165 W

センター：165 W

サラウンド：165 W + 165 W

サラウンドバック／フロントハイ：
165 W + 165 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック／フロントハイ：
6 Ω～16 Ω

高調波ひずみ率

0.09%以下

20 Hz～20 kHz

(6 Ω 負荷)

100 W + 100 W

周波数特性

アナログ

10 Hz～100 kHz、+0.5/-2 dB
(6 Ω)（サウンドフィールド、イコライザー不使用時）

入力

アナログ

感度：500 mV/50 kΩ

SN比¹⁾：105 dB
(A、500 mV²⁾)

デジタル（同軸）

インピーダンス：75 Ω

SN比：100 dB
(A、20 kHz LPF)

デジタル（光）

SN比：100 dB
(A、20 kHz LPF)

出力（アナログ）

ZONE 2

電圧：2 V/1 kΩ

SUBWOOFER

電圧：2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル

±10 dB、1 dBステップ

1) INPUT SHORT（サウンドフィールド、イコライザー バイパス時）

2) 加重ネットワーク、入力レベル

FM チューナー部

受信範囲

76.0 MHz～108.0 MHz (100 kHz
ステップ)

アンテナ

FMアンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡

ビデオ部

入力／出力

映像：

1 Vp-p、75 Ω

HDMI 映像部

解像度

- 480p/60 Hz
- 576p/50 Hz
- 720p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、24 Hz
- 1080i/60 Hz、50 Hz
- 1080p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz
- 4K/60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz*

* VIDEO 1は4K/60p 4:2:0 8 bit 対応のみ

対応

HDCP 2.2、HDR、3D、Deep Color、ITU-R BT.2020、ARC

iPhone/iPad/iPod 部

BLUETOOTH技術はiPhone 6s Plus、iPhone 6s、iPhone 6 Plus、iPhone 6、iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPhone 4s、iPhone 4 およびiPod touch（第5および第6世代）に対応しています。

AirPlayは、iOS 4.3.3 以降を搭載したiPhone、iPad、iPod touchに対応しています。またOS X Mountain Lion 以降を搭載したMac、およびiTunes 10.2.2 以降を搭載したPCに対応しています。

BLUETOOTHまたはネットワーク接続で「SongPal」アプリを使うことができます。

iPhone/iPad/iPodをUSB接続で再生することはできません。

USB 部

† (USB) ポート

A タイプ (USBメモリー接続用)

最大電流

1 A

ネットワーク部

イーサネットLAN

100BASE-TX

無線LAN

適合規格：

IEEE 802.11 a/b/g/n

セキュリティー：

WPA/WPA2-PSK、WEP

使用周波数帯域：

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH 部

通信方式

BLUETOOTH標準規格4.1

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m¹⁾

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯域 (2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方法

FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC、LDAC

対応コンテンツプロテクション

SCMS-T方式

送信範囲 (A2DP)

20 Hz～40,000 Hz (LDACサンプリング周波数 96 kHz、990 kbps 送信)

20 Hz～20,000 Hz (サンプリング周波数 44.1 kHz)

¹⁾ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。

- 2) BLUETOOTH標準プロファイルは機器間のBLUETOOTH通信のためのものです。
- 3) コーデック：音声信号の圧縮、変換のフォーマットです。
- 4) Subband Codecの略です。

一般

電力規定

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

190 W

消費電力（スタンバイ時）

0.4 W 以下（[HDMI機器制御] および
[スタンバイスルー]、[リモート起動]、
[Bluetoothスタンバイ]、[高速起動/
ネットワークスタンバイ]、すべての
ゾーンの電源が [切] に設定されてい
るとき）

寸法（幅／高さ／奥行き）（約）

430 mm × 172 mm × 329.4 mm
(最大突起部を含む)

質量（約）

10.5 kg

仕様および外観は、予告なく変更すること
があります。

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL) を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他の知的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

- お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
- 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

- ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用をお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。
- 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。
- お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条（著作権保護及び自動アップデート）

- お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令に従うものとします。また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。
- お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。
(ア) 許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、
(イ) 当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること

(ウ) アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティー及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条（契約の解約）

- ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
- 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れするものとします。

第12条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条（その他）

- 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
- 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
- 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
- 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

サポート情報について

本機の最新情報については、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<http://www.sony.jp/support/faq.html>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話 050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこれらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Made for



iPod



iPhone



iPad



AirPlay

LDAC

HDMI

dlna
CERTIFIED™



* 4 5 8 3 7 4 8 0 3 * (1)